Japan Lifeline



…for patient comfort.

2024年3月期
通期決算説明会資料

決算発表　　：2024年５月１日
決算説明会　：2024年５月８日

日本ライフライン株式会社
東証プライム市場：7575

Unauthorized copying prohibited.
Copyright © Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.

本日の内容

Japan Lifeline

01. 2024年3月期　通期決算報告

02. 2025年3月期　業績予想

03. 中期経営計画の進捗

04. 質疑応答

Appendix.　参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

本日の内容

Japan Lifeline

01. 2024年3月期　通期決算報告

02. 2025年3月期　業績予想

03. 中期経営計画の進捗

04. 質疑応答

Appendix.　参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

2024/3期 連結サマリー（通期）

Japan Lifeline

通期実績 損益ハイライト

売上高		営業利益		当期純利益	
51,384 百万円[*1]	YoY ▲365 (▲0.7%)	10,892 百万円	YoY +55 (+0.5%)	7,515 百万円	YoY +623 (+9.1%)

- ✓ **売上高はわずかに減収**。全般的に販売は好調、Baylis社製品の商流変更[*2]等のマイナスをカバー
- ✓ **営業利益は増益(過去最高益)**。販管費の増加を、自社製品比率の上昇に伴う粗利率の改善で吸収
- ✓ **当期純利益は大幅増益**。前年同期に特別損失の計上あり

品目別売上高 ハイライト

リズムディバイス　YoY +8.9%

↗ (+) S-ICDが好調

EP/アブレーション　YoY ▲7.8%

↘ (－) Baylis社製品の商流変更
(＋) AF[*3]関連製品が伸長

心血管関連　YoY +11.9%

↑ (+) 人工血管関連が堅調
(+) 脳血管関連が好調

消化器(消化器及びCI事業) YoY▲35.8% ※消化器のみでは+41.5%

↓ (－) CI事業[*4]の縮小
(＋) 胆管用チューブステントが好調

*1 金額百万円未満は切捨(以降のスライドも同様)
*2 Boston ScientificがBaylis Medical社を買収したことを受け、2023年3月末でBaylis社製品の独占販売が終了。4月以降、当社はBoston社に販売支援サービスを提供する形態へ移行
*3 心房細動(Atrial Fibrillation)
*4 冠動脈インターベンション(Coronary Intervention)

2024/3期 連結業績概況（通期）

Japan Lifeline

✓ 売上高はほぼ前期並み。営業利益は粗利率の改善がコスト増を吸収、過去最高を更新

(単位:百万円)	2024/3期 通期実績	2024/3期 YoY	2024/3期 %	2023/3期 通期実績
売上高	51,384	▲365	▲0.7	51,750
売上総利益	30,986	+1,091	+3.7	29,895
構成比	60.3%			57.8%
販管費	20,094	+1,036	+5.4	19,057
構成比	39.1%			36.8%
営業利益	10,892	+55	+0.5	10,837
構成比	21.2%			20.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	7,515	+623	+9.1	6,891
構成比	14.6%			13.3%
自社製品比率	58.8%			54.9%
1株当たり利益	98.73円			88.22円

売上高　YoY ▲0.7% 減収

(+) 既存領域が堅調 (+3,295M 「M」=百万円、以下同)

(+) 新領域(脳血管・消化器)が好調 (+953M)

(−) Baylis社製品の商流変更 (▲3,610M)

(−) CI事業の縮小 (▲1,005M)

営業利益　YoY +0.5% 増益

詳細は次ページ

当期純利益　YoY +9.1% 増益

(−) 営業外費用

当期Q4：ベンチャー企業への出資の減損

(投資有価証券評価損 利益影響額▲504M)

(+) 特別損失

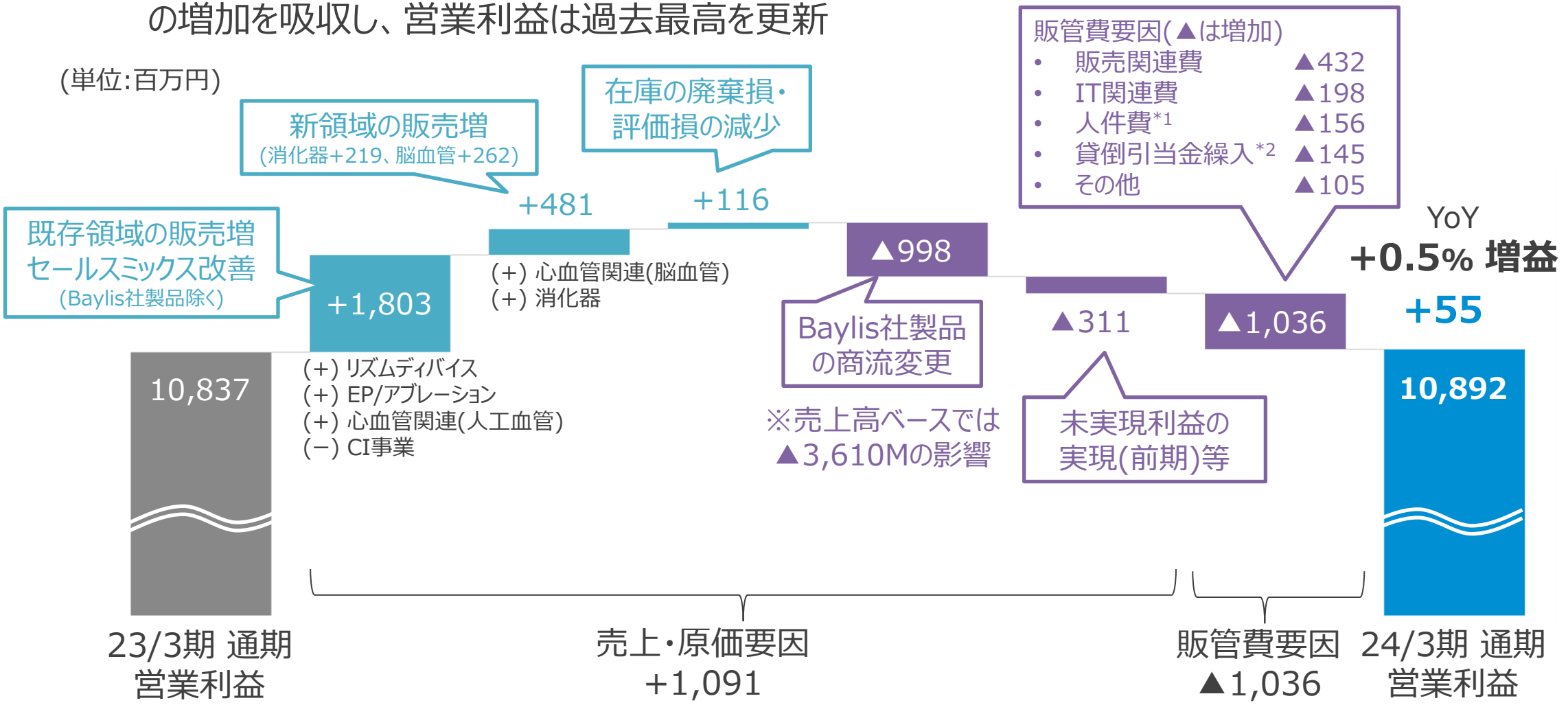
前期Q3：取引先株式の増資に伴う希薄化

(投資有価証券評価損　利益影響額+1,190M)

2024/3期 連結営業利益 増減分析（通期）

Japan Lifeline

✓ 既存領域と新領域がともに順調に進捗。Baylis社製品の商流変更に伴うマイナス影響や販管費の増加を吸収し、営業利益は過去最高を更新



*1 従業員の業績連動決算賞与の導入等による
*2 取引先への売上債権の一部に回収懸念が発生

2024/3期 通期 品目別売上高

売上高は通期でほぼ前期並みで着地

- ✓ 症例数の堅調な増加を背景に、販売は全般的に好調
- ✓ 特に、重点的に取り組んでいる新領域(脳血管・消化器)は大きく成長
- ✓ 一部商品の商流変更や事業終了に伴う一過性のマイナス影響をほぼカバー

(単位:百万円)	2024/3期 通期実績	2024/3期 YoY	2024/3期 %	2023/3期 通期実績	2024/3期 1-3月実績	2024/3期 YoY	2024/3期 %	2023/3期 1-3月実績
リズムディバイス	13,501	+1,098	+8.9	12,403	3,356	+334	+11.1	3,022
EP/アブレーション	24,249	▲2,043	▲7.8	26,292	6,095	▲723	▲10.6	6,818
心血管関連	12,319	+1,313	+11.9	11,006	3,333	+388	+13.2	2,945
うち脳血管	912	+682	+296.7	230	289	+190	+191.1	99
消化器(CI事業含む)	1,314	▲733	▲35.8	2,048	296	▲169	▲36.3	465
うち消化器	925	+271	+41.5	654	242	+49	+25.6	193
売上高 合計	51,384	▲365	▲0.7	51,750	13,081	▲169	▲1.3	13,251

2024/3期 通期 リズムディバイス

オンリーワンのS-ICDの伸長により、売上高は通期ベースで過去最高を更新

① ペースメーカ関連は、旧モデルの自主回収(Q3)による交換症例増により増収
② ICD関連は、S-ICDの販促が奏功し二桁成長を達成
③ その他(AED関連)も堅調に推移

(単位:百万円)	2024/3期 通期実績	YoY	%	2023/3期 通期実績	2024/3期 1-3月実績	YoY	%	2023/3期 1-3月実績
① ペースメーカ関連	5,241	+261	+5.3	4,979	1,316	+116	+9.7	1,200
② ICD関連	7,857	+807	+11.5	7,049	1,936	+220	+12.9	1,715
③ その他*1	402	+28	+7.7	374	104	▲2	▲2.4	106
リズムディバイス 計	13,501	+1,098	+8.9	12,403	3,356	+334	+11.1	3,022

*1 AEDを含む

2024/3期 通期 EP/アブレーション

商流変更のマイナス影響の大部分を主力自社製品の増収でカバー

① EPカテーテルは、AF症例数の前期比8～9%増加[*1]を背景に自社製品が好調、売上高は通期ベースで過去最高を更新。他社の心腔内除細動カテーテル[*2]への新規参入の影響は限定的
② アブレーションカテーテルは、「HeartLight X3」の販売が持ち直しつつも減収
③ その他は、「RF Needle」の商流変更で大幅な減収。新製品の止血デバイスの立ち上がりは良好

(単位:百万円)	2024/3期 通期実績	YoY	%	2023/3期 通期実績	2024/3期 1-3月実績	YoY	%	2023/3期 1-3月実績
① EPカテーテル	21,211	+1,556	+7.9	19,654	5,175	+131	+2.6	5,043
② ABLカテーテル	840	▲170	▲16.9	1,011	223	▲19	▲7.9	242
③ その他[*3]	2,197	▲3,428	▲60.9	5,626	696	▲835	▲54.5	1,532
EP/アブレーション 計	24,249	▲2,043	▲7.8	26,292	6,095	▲723	▲10.6	6,818

*1 Q4(1-3月)の前年同期比８～９%程度増加と推定
*2 心腔内除細動カテーテル「BeeAT」。オンリーワン製品として前期まで当社のみが市場で販売。「EPカテーテル」の売上高の半分以上を占める重要製品
*3 スティーラブルシース、RF Needle、止血デバイス等

2024/3期 通期 心血管関連

人工血管関連、脳血管関連ともに好調。売上高は通期ベースで過去最高を更新

① 人工血管関連は、OSG[*1]の新製品の導入及び腹部用ステントグラフトの好調により増収
他社のOSGへの新規参入の影響は限定的

② 脳血管関連は、前期比4倍の増収。既存の塞栓用コイルと新たに発売した血栓吸引カテーテルを伸ばす
継続的に追加モデルも上市したことも奏功[*2]

③ その他は、心房中隔欠損閉鎖器具が堅調を維持

(単位:百万円)	2024/3期 通期実績	YoY	%	2023/3期 通期実績	2024/3期 1-3月実績	YoY	%	2023/3期 1-3月実績
① 人工血管関連	10,956	+603	+5.8	10,353	2,926	+182	+6.6	2,743
② 脳血管関連	912	+682	+296.7	230	289	+190	+191.1	99
③ その他[*3]	449	+26	+6.4	423	117	+15	+15.4	102
心血管関連 計	12,319	+1,313	+11.9	11,006	3,333	+388	+13.2	2,945

*1 オープンステントグラフト(自社製品)
*2 塞栓用コイルの追加モデル「Avenir Pico」(Q2)、「Meganir」(Q4)、血栓吸引カテーテルのDAC(中間カテーテル)としての承認取得(Q4)
*3 心房中隔欠損閉鎖器具を含む

2024/3期 通期 消化器

胆管チューブステントが引き続き伸長、CI事業は当期で終了

① 消化器関連は、胆管チューブステントのシェア拡大がけん引。売上高は過去最高を更新
　大腸用ステント、肝癌アブレーションニードルも堅調に推移
② その他は、CI事業終了に伴い減収

(単位:百万円)	2024/3期 通期実績	YoY	%	2023/3期 通期実績	2024/3期 1-3月実績	YoY	%	2023/3期 1-3月実績
① 消化器関連	925	+271	+41.5	654	242	+49	+25.6	193
② その他*1	388	▲1,005	▲72.1	1,394	53	▲218	▲80.4	271
消化器 計 (消化器及びCI事業)	1,314	▲733	▲35.8	2,048	296	▲169	▲36.3	465

*1 事業撤退を予定しているCI事業。薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro」、ガイドワイヤー、バルーンカテーテル等を含む

本日の内容

01. 2024年3月期　通期決算報告

02. 2025年3月期　業績予想

03. 中期経営計画の進捗

04. 質疑応答

Appendix.　参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

2025/3期 連結業績予想（通期）

Japan Lifeline

通期損益予想	売上高		営業利益		当期純利益	
	54,000 百万円	YoY +2,615 (+5.1%)	11,200 百万円	YoY +307 (+2.8%)	8,000 百万円	YoY +484 (+6.4%)

- ✓ **売上高は増収(過去最高)を予想**。保険償還価格の改定により販売単価は下落するが、症例数の堅調な伸びとともに販売増。新規導入品も大きく寄与へ
- ✓ **営業利益は増益(過去最高)を予想**。販管費は増加するが、営業利益率20%水準は維持
- ✓ **当期純利益は増益(過去最高)を予想**

品目別売上高予想

リズムディバイス　YoY ▲6.0%
↘ (−) 保険償還価格の改定

EP/アブレーション　YoY +11.3%
↑ (+) AF関連製品の伸長
(+) 止血デバイスの本格販売

心血管関連　YoY +0.7%
→ (+) OSG製品群の伸長

脳血管関連　YoY +77.6%
↑ (+) 新商品の上市
(+) 既存商品のシェア拡大

消化器(消化器及びCI事業) YoY▲7.2% ※消化器のみでは+31.8%
↘ (+) 胆膵関連の新製品発売
(−) CI事業の終了

2025/3期 連結業績予想（通期）

Japan Lifeline

✓ **売上高・営業利益・当期純利益はいずれも過去最高を更新する見通し**

(単位:百万円)	2025/3期 通期予想	2025/3期 YoY	2025/3期 %	2024/3期 通期実績
売上高	54,000	+2,615	+5.1	51,384
売上総利益	32,300	+1,313	+4.2	30,986
構成比	59.8%			60.3%
販管費	21,100	+1,005	+5.0	20,094
構成比	39.1%			39.1%
営業利益	11,200	+307	+2.8	10,892
構成比	20.7%			21.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	8,000	+484	+6.4	7,515
構成比	14.8%			14.6%
自社製品比率	57.9%			58.8%
1株当たり利益	113.58円			98.73円

売上高　YoY +5.1% 増収

(+) 症例数の増加に伴う販売数量の増加
(+) 新規導入品の本格的寄与開始
　⇒EP/アブレーション：止血デバイス
　⇒心血管関連：オープンステントグラフトの新製品
　⇒脳血管：発売スケジュール＆拡販施策の進捗
(−) 保険償還価格の改定に伴う販売単価の下落

営業利益　YoY +2.8% 増益

詳細は次ページ

当期純利益　YoY +6.4% 増益

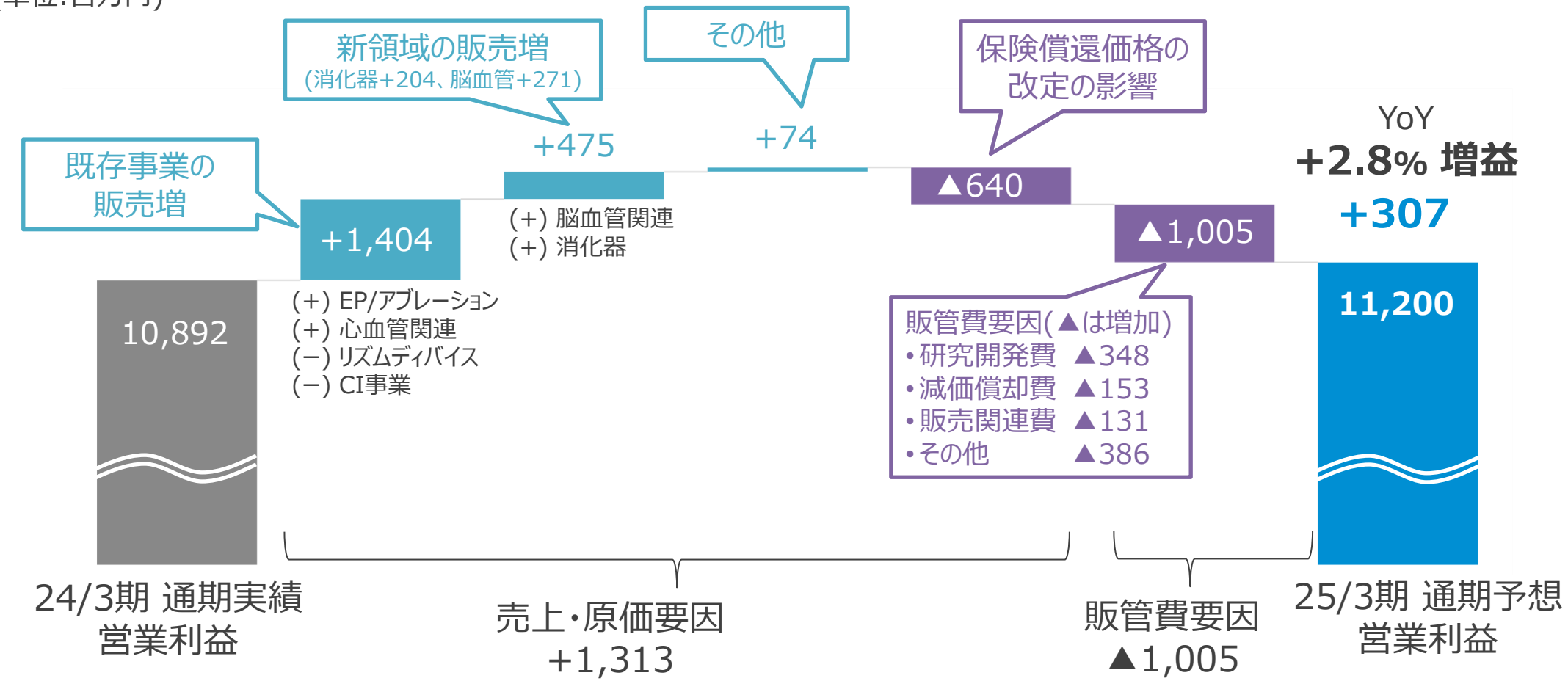
(+) 前期に投資有価証券評価損(営業外)を計上
(+) 賃上げによる税額控除の取得見込み

2025/3期 連結営業利益 増減分析（通期予想）

Japan Lifeline

✓ 保険償還価格の改定による販売単価の下落と販管費の増加を見込む。一方、販売は既存・新規領域ともに好調を予想、マイナス影響を吸収し営業利益は過去最高を更新する見通し

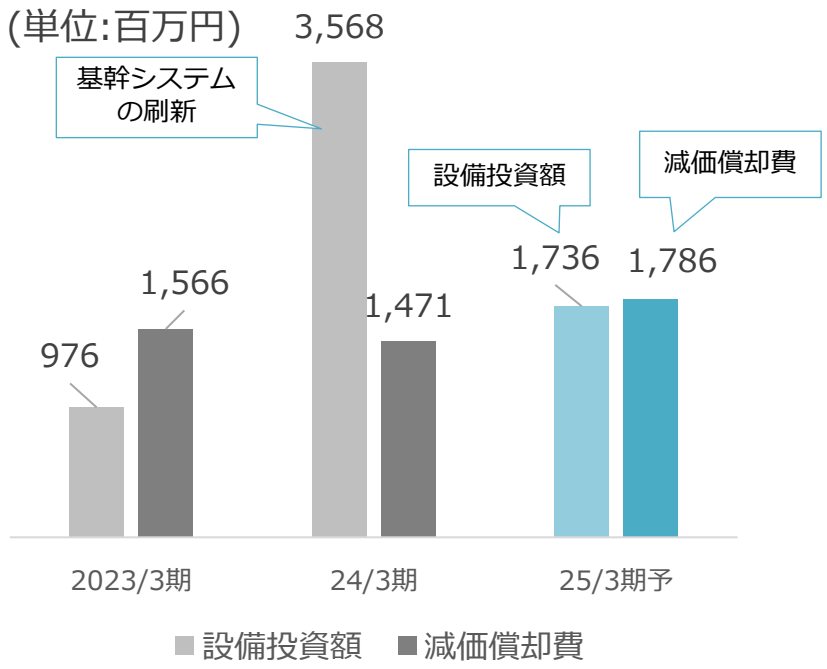
(単位:百万円)



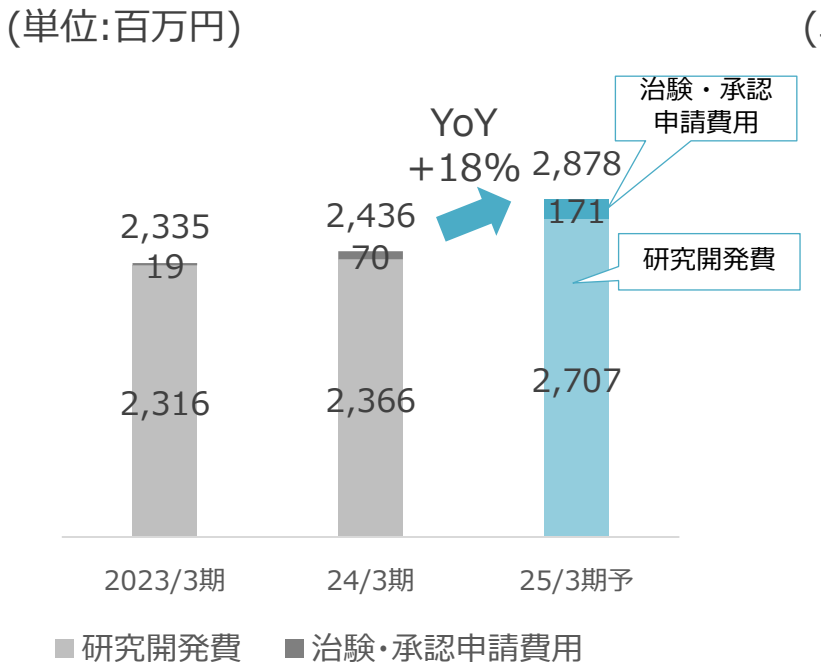
2025/3期 設備投資額/減価償却費/研究開発費/従業員数

- ✓ 設備投資額は、24/3期は基幹システムの刷新で大きく増加。25/3期は減価償却費並みの規模へ
- ✓ 研究開発投資は、「研究開発費＋製品上市に係る治験・承認申請費用」と定義して今後把握。25/3期は前期比18%増加を見込む
- ✓ 従業員数は、増加を見込む。人工血管や脳血管の営業強化及び経営基盤強化のため

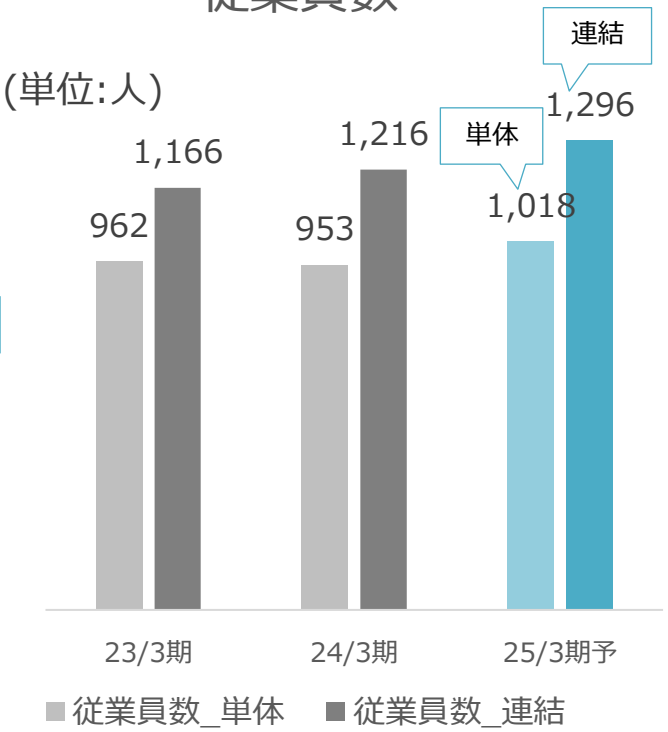
設備投資と減価償却費*1



研究開発投資



従業員数



*1 2024/3期から減価償却方法を定率法から定額法に変更

品目区分の変更

Japan Lifeline

✓ 2025/3期より、「心血管関連」のサブ区分としていた**「脳血管関連」を独立したメイン区分に変更**

変更前

メイン区分	サブ区分
リズムディバイス	ペースメーカ関連
	ICD関連
	その他
EP/アブレーション	EPカテーテル
	ABLカテーテル
	その他
心血管関連	人工血管関連
	脳血管関連
	その他
消化器	消化器
	その他

変更後

メイン区分	サブ区分	主なプロダクト
リズムディバイス	ペースメーカ関連	ペースメーカ, CRT-P
	ICD関連	ICD, S-ICD, CRT-D
	その他	AED
EP/アブレーション	EPカテーテル	除細動カテーテル 等
	ABLカテーテル	内視鏡レーザーカテーテル
	その他	止血デバイス 等
心血管関連	人工血管関連	オープンステントグラフト 等
	その他	心房中隔欠損閉鎖器具
脳血管関連	脳血管関連	塞栓用コイル 等
消化器	消化器	胆管チューブステント 等
	その他	CI関連 (終了)

2025/3期 品目別売上高の予想(通期)

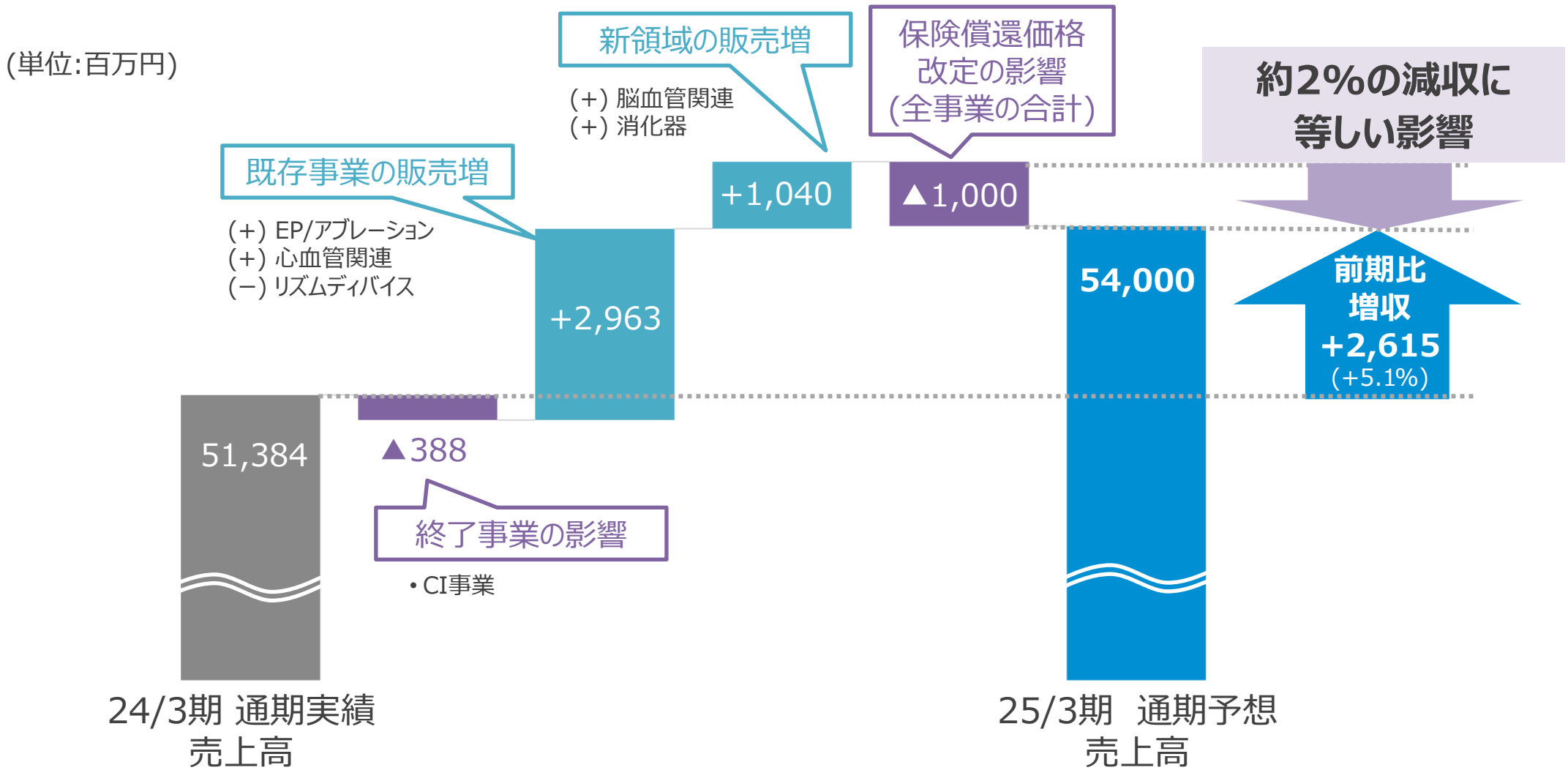
売上高は前期比5%程度の増収を見込む

- ✓ 症例数の増加に伴う販売数量の増加に加え、新規導入品の収益寄与が進む
- ✓ 一方、2024年6月の保険償還価格の改定により、全般的に販売単価の下落を織り込む
- ✓ 前期比較で商流変更等の一過性の減収要素がなくなる

(単位:百万円)	2025/3期			2024/3期
	通期予想	YoY	%	通期実績
リズムディバイス	12,690	▲811	▲6.0	13,501
EP/アブレーション	26,980	+2,730	+11.3	24,249
心血管関連	11,490	+83	+0.7	11,406
脳血管関連	1,620	+707	+77.6	912
消化器(CI事業含む)	1,220	▲94	▲7.2	1,314
うち消化器	1,220	+294	+31.8	925
売上高 合計	54,000	+2,615	+5.1	51,384

保険償還価格の改定の影響

✓ 2024年6月の保険償還価格の改定で販売単価の下落を見込む(売上影響額：約10億円程度)



2025/3期 リズムディバイス 通期予想

保険償還価格の改定の影響が大きく、減収を見込む

① ペースメーカー関連は、自主回収に伴う本体交換(増収要因)が当期も一定程度継続するが、販売単価の下落が厳しく減収を見込む

② ICD関連は、単価下落がないオンリーワンのS-ICDに引き続き注力。新規症例の獲得は堅調を見込むが、交換症例は下期にかけて需要減少を見込み、減収を予想

(単位:百万円)	2025/3期			2024/3期
	通期予想	YoY	%	通期実績
① ペースメーカ関連	4,660	▲581	▲11.1	5,241
② ICD関連	7,580	▲277	▲3.5	7,857
③ その他*1	450	+47	+11.7	402
リズムディバイス 計	12,690	▲811	▲6.0	13,501

*1 AEDを含む

2025/3期 EP/アブレーション 通期予想

止血デバイスの急成長とAF症例数の堅調な増加を背景に二桁成長を見込む

① EPカテーテルは、AF症例数の増加(前期比+8%程度)を背景に自社製品が伸長、過去最高を更新へ
心腔内除細動カテーテルに他社参入があるも影響は限定的 (予想に影響の織り込みあり)
② ABLカテーテルは、競争力を失っている自社製品の落ち込みが厳しく、減収を見込む
③ その他は、止血デバイスの本格的な普及により、大幅な増収を見込む

(単位:百万円)	2025/3期			2024/3期
	通期予想	YoY	%	通期実績
① EPカテーテル	22,280	+1,068	+5.0	21,211
② ABLカテーテル	760	▲80	▲9.6	840
③ その他*1	3,940	+1,742	+79.3	2,197
EP/アブレーション 計	26,980	+2,730	+11.3	24,249

*1 スティーラブルシース、大腿静脈用止血デバイス、Baylis社製品等を含む

2025/3期 心血管関連 通期予想

保険償還価格の改定と競争の影響はあるも、増収の見通し

① 人工血管関連は、コア自社製品であるオープンステントグラフトの２つの新製品*1の拡販に集中
一定の競争はあるも、増産と製品改良を継続し、販売機会の最大化に努める
通常の人工血管は単価下落及び販売減を見込む*2
腹部用ステントグラフトは安定的な販売を見込む

(単位:百万円)	2025/3期			2024/3期
	通期予想	YoY	%	通期実績
① 人工血管関連	11,080	+123	+1.1	10,956
② その他*3	410	▲39	▲8.9	449
心血管関連 計	11,490	+83	+0.7	11,406

*1「Frozenix 4 Branched」及び「Frozenix Partial ET」
*2 市場トレンドとして、４分岐付き人工血管とオープンステントグラフトの一体型が拡大すると予想。これにより、通常の人工血管(４分岐管)はカニバリの影響(販売本数減)がある見通し
*3 心房中隔欠損閉鎖器具等を含む

2025/3期 新領域(脳・消化器) 通期予想

脳血管関連・消化器ともに成長拡大

- 脳血管関連：マイクロカテーテルとステントリトリーバーを上市予定。プロダクト・ポートフォリオの充実化に伴い、既導入品とのシナジーを発揮し、大幅な増収を予想
- 消化器：胆管チューブステントが引き続き成長をけん引、胆膵ガイドワイヤも寄与。複数の自社製品の上市*1を見込むが、当期の収益寄与としては限定的。②その他のCI関連事業は終了

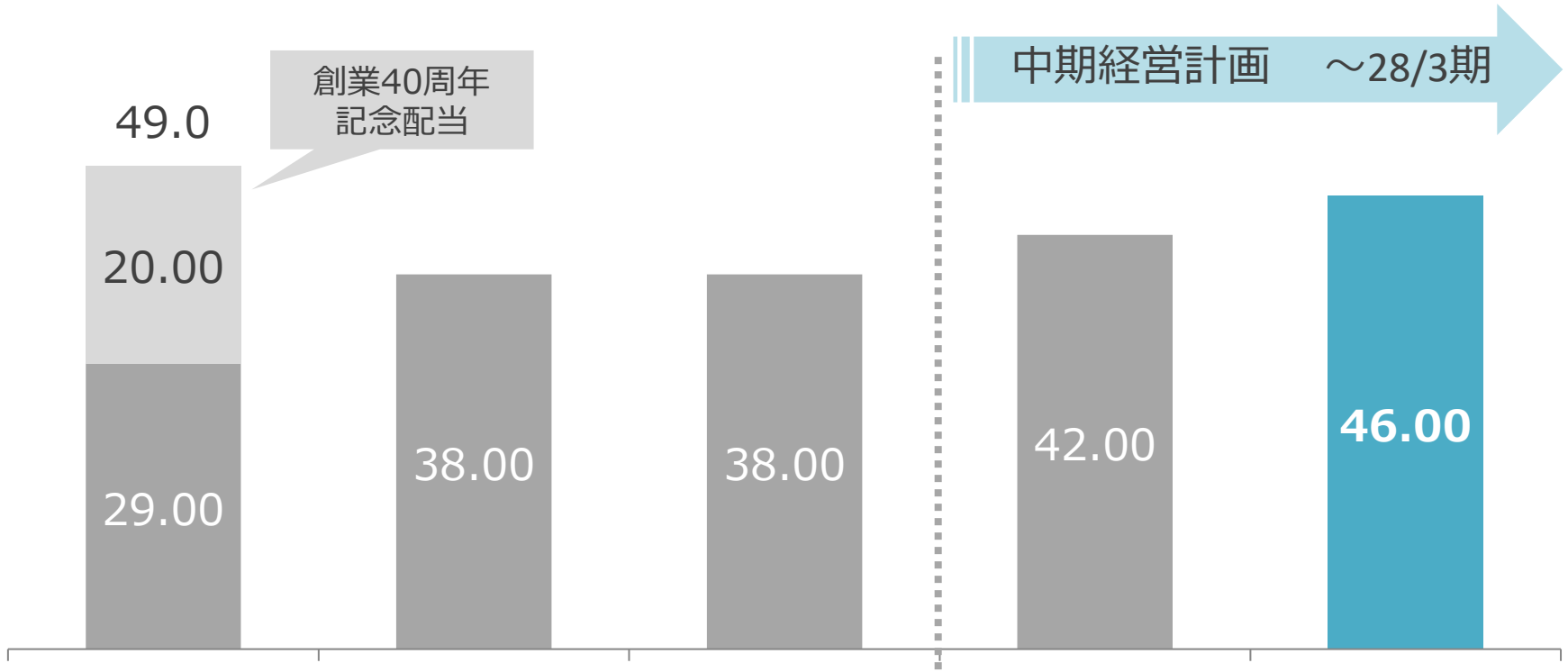
(単位:百万円)	2025/3期			2024/3期
	通期予想	YoY	%	通期実績
脳血管関連 計	1,620	+707	+77.6	912
① 消化器関連	1,220	+294	+31.8	925
② その他*2	―	▲388	▲100.0	388
消化器 計	1,220	▲94	▲7.2	1,314

*1 上期上市予定：胆膵ガイドワイヤー、胃・十二指腸用ステント(再上市)、乳頭拡張バルーン。下期上市予定：胆道鏡、ダイレーター、カニューラ
*2 終了したCI事業。主な製品は薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro」、ガイドワイヤー、バルーンカテーテル等

2025/3期 配当予想

- ✓ 2025年3月期の１株あたり配当は46円を予想(前期比4円増配)
- ✓ 中期の株主還元の方針(ベース配当として配当性向40%またはDOE5%のいずれか高い方)に従う

(単位:円)



	2021/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期 予
配当性向	196.7%*1	40.8%	43.1%	42.5%	**40.5%**
DOE*2	7.7%	5.8%	5.4%	5.6%	**5.8%**

*1 多額の特別損失の計上(5,982M)があり、外れ値
*2 Dividend on Equity 株主資本配当率

自己株式の取得及び自己株式の公開買付け

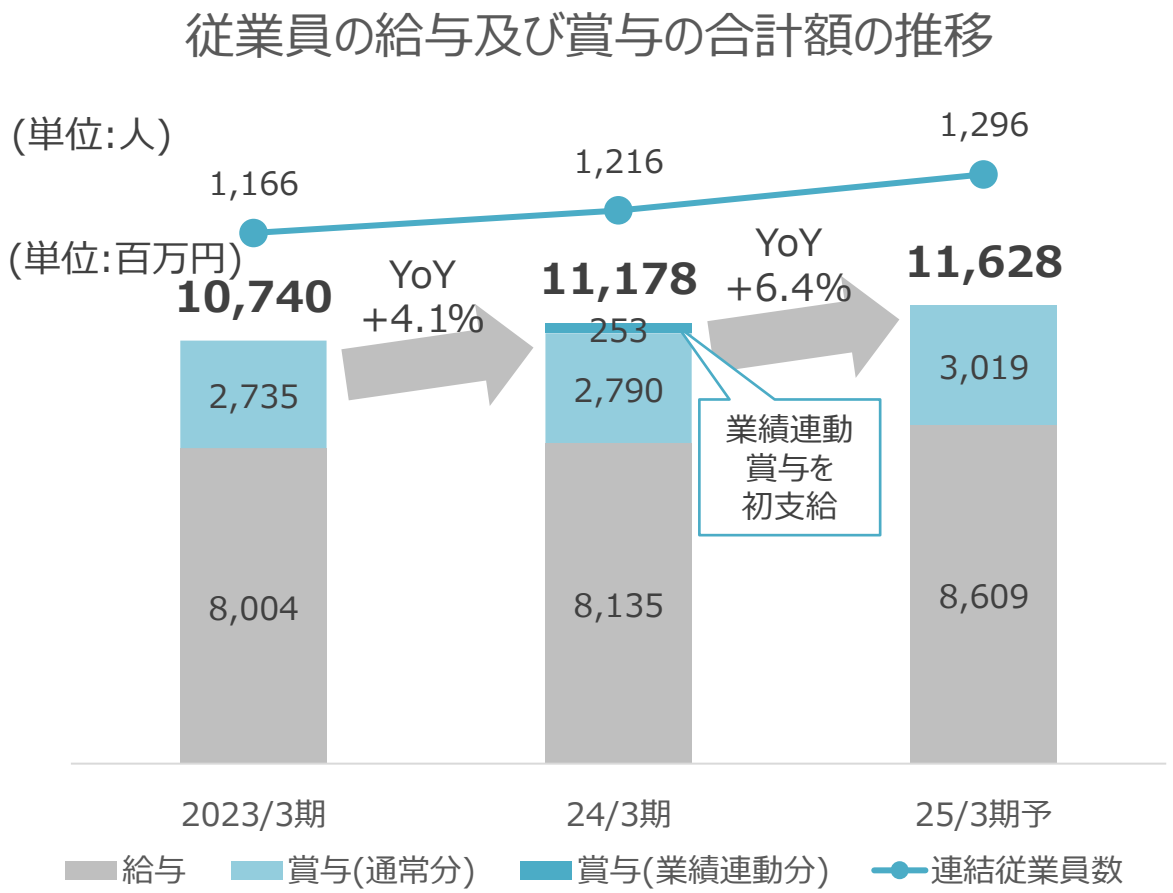
✓ 2024/5/1開催の取締役会にて、自己株式の取得及び自己株式の公開買付けに関する事項を決定

取得する株式の種類	普通株式
取得する株式の総数	5,000,000株 (上限：5,500,100株) 発行済株式(自己株式除く)の6.67% (上限：7.34%)
買付等の価格	普通株式１株につき、1,045円 ※公開買付けの公表日前営業日まで過去1ヶ月間の当社普通株式終値の単純平均値である1,161円から10%ディスカウントした価格
取得する株式の総額	5,225,000,000円（上限：5,747,604,500円）
取得する期間	2024/5/2から2024/6/3
取得する方法	公開買付け
決済の開始日	2024/6/25
備考	• 当社の筆頭株主であるエムティ商会より、5,000,000株について本公開買付に応募する旨の回答を得ています。 • 使途が見込まれるものを除き、発行済み株式総数の１%程度を超える自己株式を消却します。

従業員報酬の改善

✓ 2024年3月期以降、人材確保を目的として、従業員の報酬体系の見直し・改善を進める

	2024年3月期	2025年3月期
定期昇給・ベースアップ（正社員）	+4.0%	+5.5%
待遇改善（パート）	時給+13.4%	時給+9.3% 賞与改定あり
インセンティブ報酬制度の導入	従業員業績連動決算賞与 (連結営業利益と連動)	従業員持株会向け譲渡制限付き株式インセンティブ



*1 非正規雇用者分を含む
*2 製造費用を含む

従業員持株会に対する自己株式の処分

✓ 2024/5/1開催の取締役会にて、従業員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブとしての自己株式の処分に関する事項を決定

実施の理由	従業員に対して自社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、株主との価値共有を進めるため
取得する株式の種類	普通株式
取得する株式の総数	156,995株 発行済株式(自己株式除く)の0.21%
処分価額	普通株式１株につき、1,165円 ※2024/4/30(取締役会決議日の前営業日)の当社株式終値
処分総額	182,899,175円
処分期日	2024/7/26
処分方法	第三者割当の方法により、日本ライフライン従業員持株会に割当

本日の内容

01. 2024年3月期　通期決算報告

02. 2025年3月期　業績予想

03. 中期経営計画の進捗

04. 質疑応答

Appendix.　参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

中期業績ガイダンス 2024/3期~2028/3期

Japan Lifeline

✓ 着実な売上高・営業利益の成長に加え、資本効率を意識した経営を推進

23/5/10開示
中期経営計画説明資料より

売上高	新領域*1売上高	営業利益率	EPS	ROIC
630億円	**80億円**	**20%水準**	**120円**	**12%**
(2028/3期)	(2028/3期)	(毎期)	(2028/3期)	(2028/3期)

1. 新領域の拡大

- 脳血管及び消化器領域の拡大に最注力

2. 競争力のある製品の継続的導入

- オンリーワン製品の再強化
- 継続的に新製品・商品を導入し、市場競争力と高い粗利率(55~58%程度)を確保
- 研究開発の強化

3. 資本効率を意識した経営の強化

- 資本効率を意識した経営を実行
- システム投資の強化
- オペレーション(営業効率や在庫効率)の改善
- 株主還元の強化

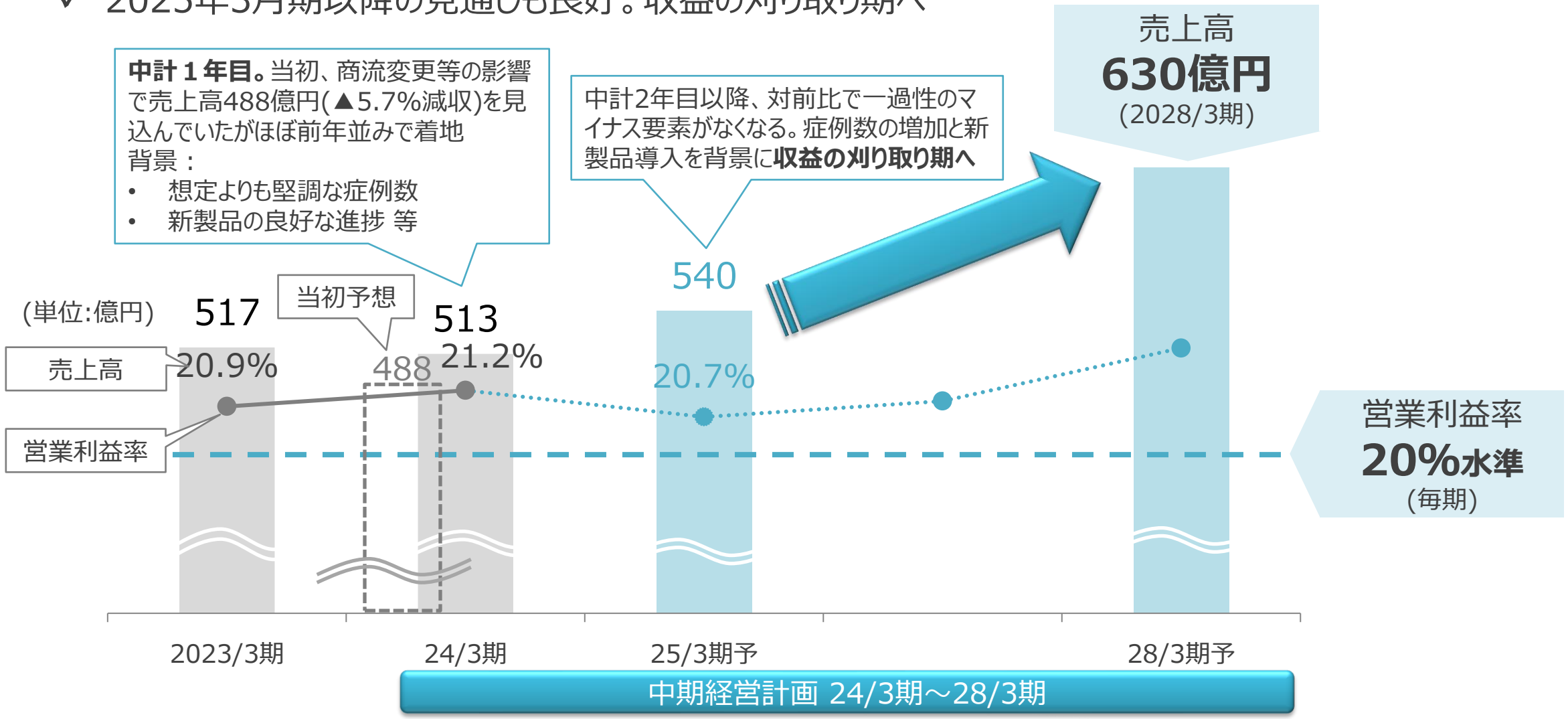
*1 脳血管領域と消化器領域

数値目標の進捗状況 1/2

施策①新領域の拡大
施策②競争力のある製品の継続的な導入

Japan Lifeline

- ✓ 5か年計画の初年度は予想を上回り順調に進捗
- ✓ 2025年3月期以降の見通しも良好。収益の刈り取り期へ



数値目標の進捗状況 2/2

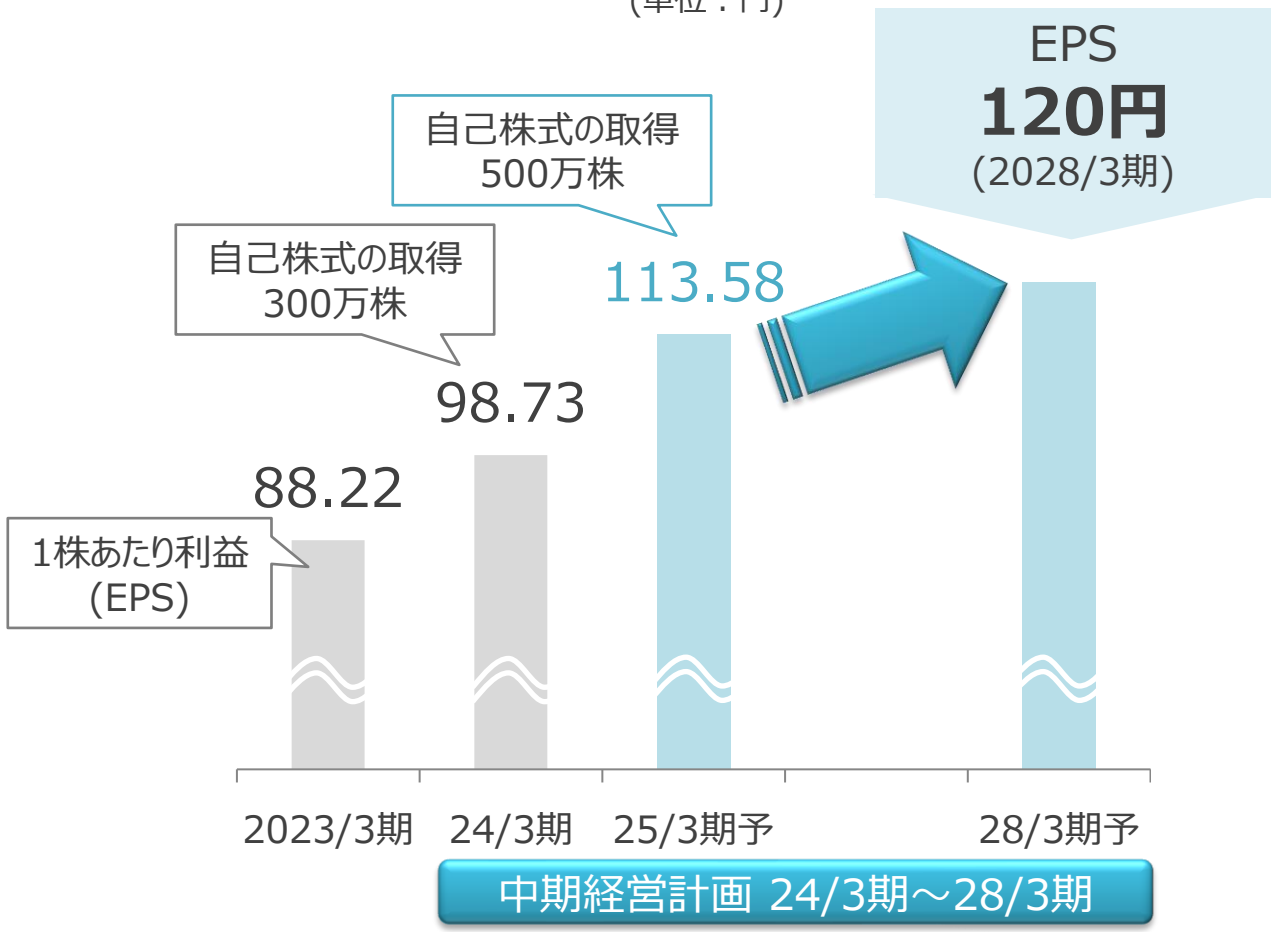
施策③資本効率を意識した経営の強化

Japan Lifeline

- ✓ 「投資家に十分に魅力的なリターンを提供すること」を目指してEPSとROICの目標を設定
- ✓ 株主還元も施策の一環として強化、EPSとROICは目標に向けて順調に進捗

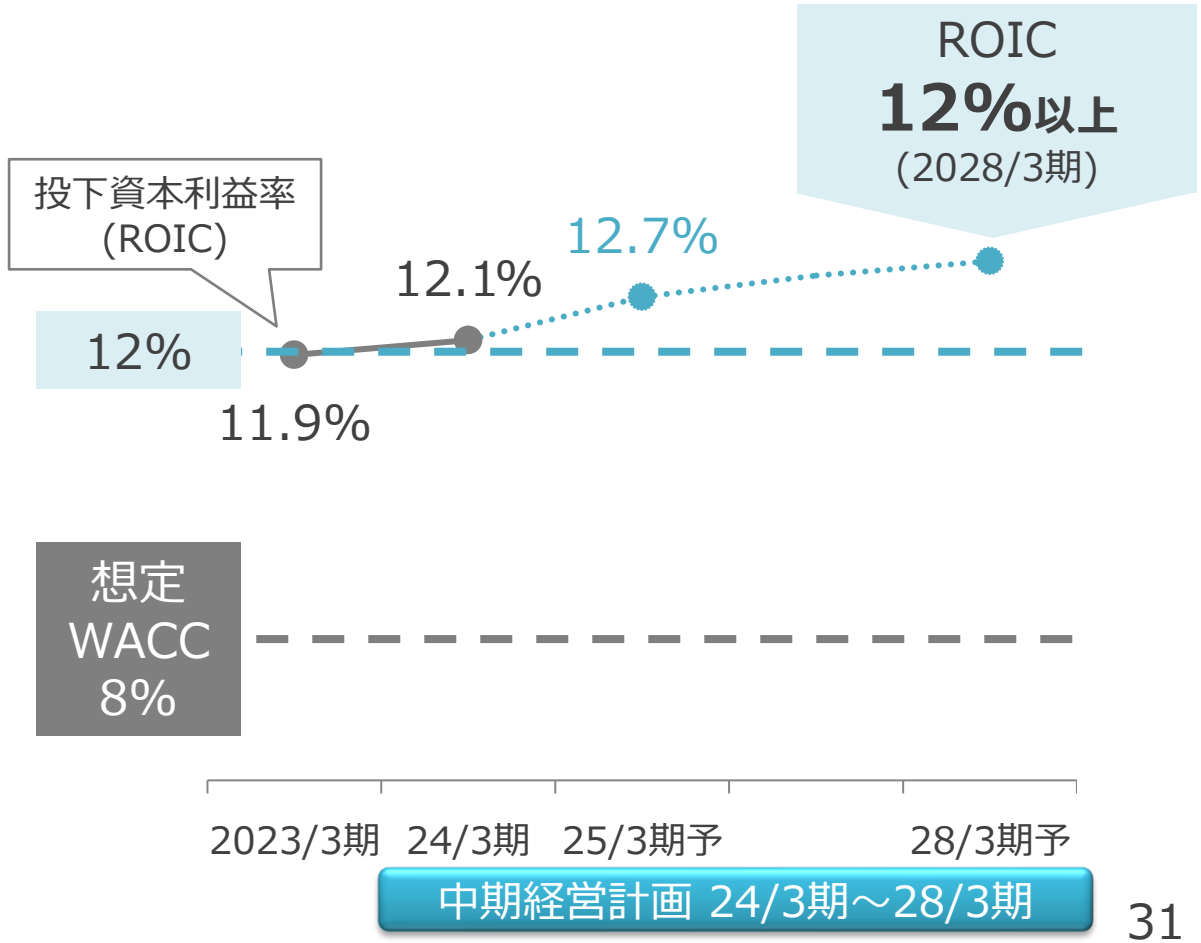
EPS(1株あたり利益)の推移

(単位：円)



中期経営計画 24/3期～28/3期

ROICの推移



中期経営計画 24/3期～28/3期

重点取組事項の進捗(1年目)

Japan Lifeline

✓ 他社参入により競争が生じているコア自社製品2品目の大幅な強化ができたことは大きなプラス。
2025/3期以降もフロンティア企業として強みの強化にリソースを集中

	2024/3期 評価	主な実施内容
新領域の強化	◎	• 脳血管は血栓吸引カテーテルを上市、既導入品の追加モデルも複数発売。市場浸透が順調に進む • 消化器は胆膵領域で自社製胆管チューブステントがシェアを拡大
競争力のある製品の継続的な導入	◎	• **コア自社製品である心腔内除細動カテーテル「BeeAT」とオープンステントグラフト「Frozenix」のラインナップを大幅に拡充** • 大腿静脈用止血デバイスを発売 • 経カテーテル生体弁の独占販売契約を締結
資本効率を意識した経営の強化	○	• デジタルマーケティングの推進 • 基幹業務システムを刷新 • 取締役・従業員に対する業績連動型報酬の見直し • IRの強化　⇒自社初となる統合報告書を発行、資本コストの開示等

本日の内容

01. 2024年3月期　通期決算報告

02. 2025年3月期　業績予想

03. 中期経営計画の進捗

04. 質疑応答

Appendix.　参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

ご質問方法

ご質問につきましては、お一人様一回につき、2問までとさせていただきます。

WEB上でご質問の方

※音声に不具合がある場合は、テキスト形式でご質問ください。

- 画面左側「QA」タブを選択し、「挙手する」ボタンを選択するか、メニューバーの「挙手アイコン」を選択してください。C-Meetingから「確認されました」 の音声が聞こえます。
- 司会者がお名前をお呼びしましたら、右図の画面に自動で切り替わりますので、ビデオのオン・オフを選択し、「続ける」を選択してください。
- 質問を取り消す場合は、同じ画面左側「QA」タブを選択し、「挙手を取り下げる」を選択するか、メニューバーの「挙手取り下げアイコン」を選択してください。



(テキスト形式)

- 画面左側「QA」タブを選択し、質問を右図のようにテキストで入力の上、送信してください。
- 司会者が質問を選択するまでは、記載いただいたご質問内容の編集が可能です。また、途中でご質問を取り消す場合は、「質問を削除する」を選択してください。



電話でご質問の方

- ご質問のある方は、電話機のコメ印の後に 数字の「 1 」を押してください。
- 司会者がお名前をお呼びしましたら、会社名・お名前の後にご質問をお願いいたします。
- 途中でご質問を取り消す場合は、コメ印の後に 数字の「 2 」を押してください。

本日の内容

01. 2024年3月期　通期決算報告

02. 2025年3月期　業績予想

03. 中期経営計画の進捗

04. 質疑応答

Appendix.　参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

2024/3期 連結サマリー（Q4 1-3月）

Japan Lifeline

Q4 1-3月 損益ハイライト

売上高		営業利益		四半期純利益	
13,081 百万円	YoY ▲169 (▲1.3%)	2,442 百万円	YoY ▲463 (▲16.0%)	1,342 百万円	YoY ▲977 (▲42.1%)

- ✓ **売上高は減収。**販売は概ね堅調に推移するも、Baylis社製品の商流変更等の影響を受ける
- ✓ **営業減益。**販管費は貸倒引当金繰入を計上の他、販売関連費や研究開発費が増加
- ✓ **純利益は大幅減益。**営業外で投資有価証券評価損を計上

品目別 売上高ハイライト

リズムディバイス　YoY +11.1%

↑ (+) S-ICDが好調

EP/アブレーション　YoY ▲10.6%

↓ (−) Baylis社製品の商流変更
(+) AF関連製品が伸長

心血管関連　YoY +13.2%

↑ (+) 人工血管関連が好調
(+) 脳血管関連が好調

消化器(消化器及びCI事業) YoY▲36.3% ※消化器のみでは+25.6%

↓ (−) CI事業の縮小
(+) 胆管用チューブステントが伸長

2024/3期 連結業績概況（Q4 1-3月）

Japan Lifeline

✓ 自社製品が伸長するも個別の減収要因とコスト増をカバーできず、**減収減益**

(単位:百万円)	2024/3期			2023/3期
	1-3月 実績	YoY	%	1-3月 実績
売上高	13,081	▲169	▲1.3	13,251
売上総利益	7,681	▲72	▲0.9	7,754
構成比	58.7%			58.5%
販管費	5,239	+390	+8.1	4,848
構成比	40.0%			36.6%
営業利益	2,442	▲463	▲16.0	2,906
構成比	18.7%			21.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,342	▲977	▲42.1	2,320
構成比	10.3%			17.5%
自社製品比率	58.4%			56.5%

売上高　YoY ▲1.3% 減収

(＋) 既存領域が堅調 (+729M)

(＋) 新領域(脳血管・消化器)が良好に進捗 (+239M)

(－) Baylis社製品の商流変更 (▲920M)

(－) CI事業の終了 (▲218M)

営業利益　YoY ▲16.0% 減益

詳細は次ページ

四半期純利益　YoY ▲42.1% 減益

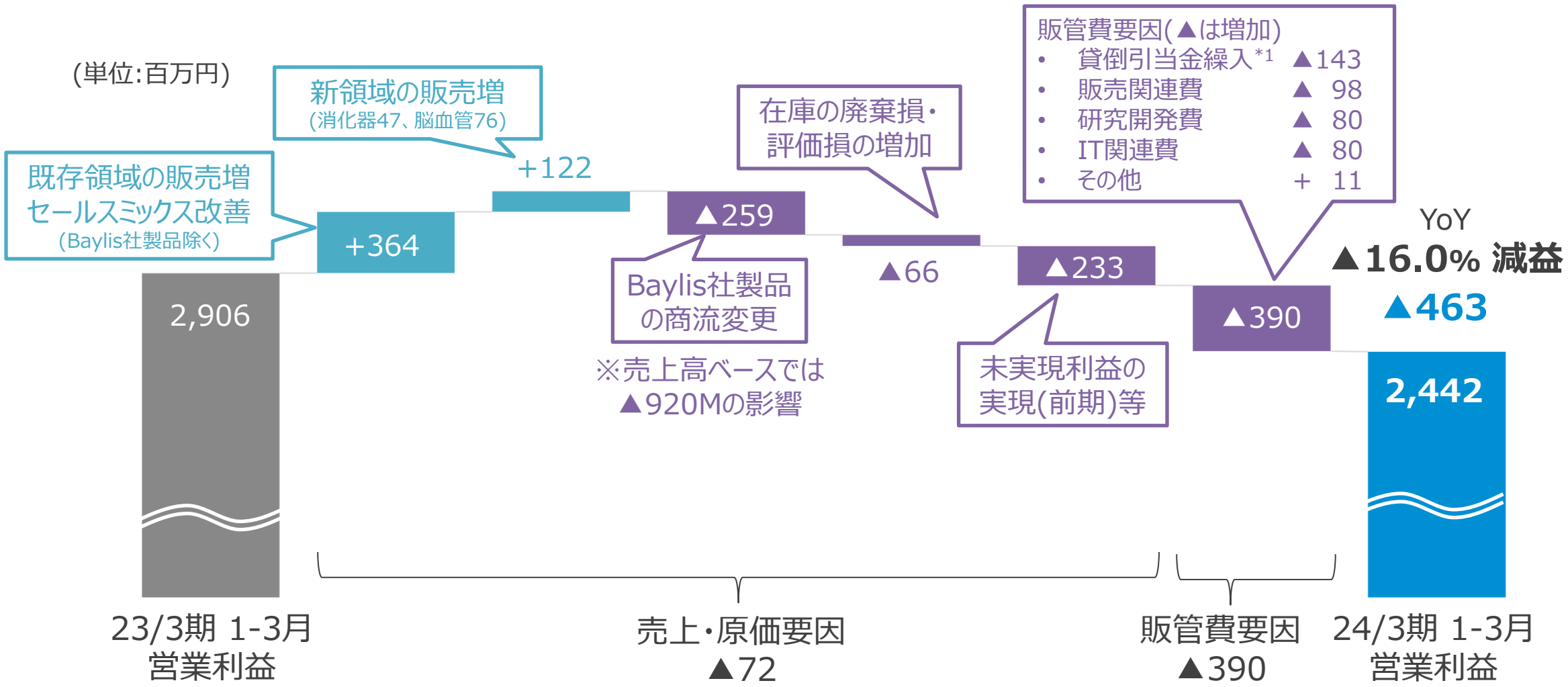
(－)ベンチャー企業への出資の減損

(投資有価証券評価損 利益影響額▲504M)

2024/3期 連結営業利益 増減分析（Q4 1-3月）

Japan Lifeline

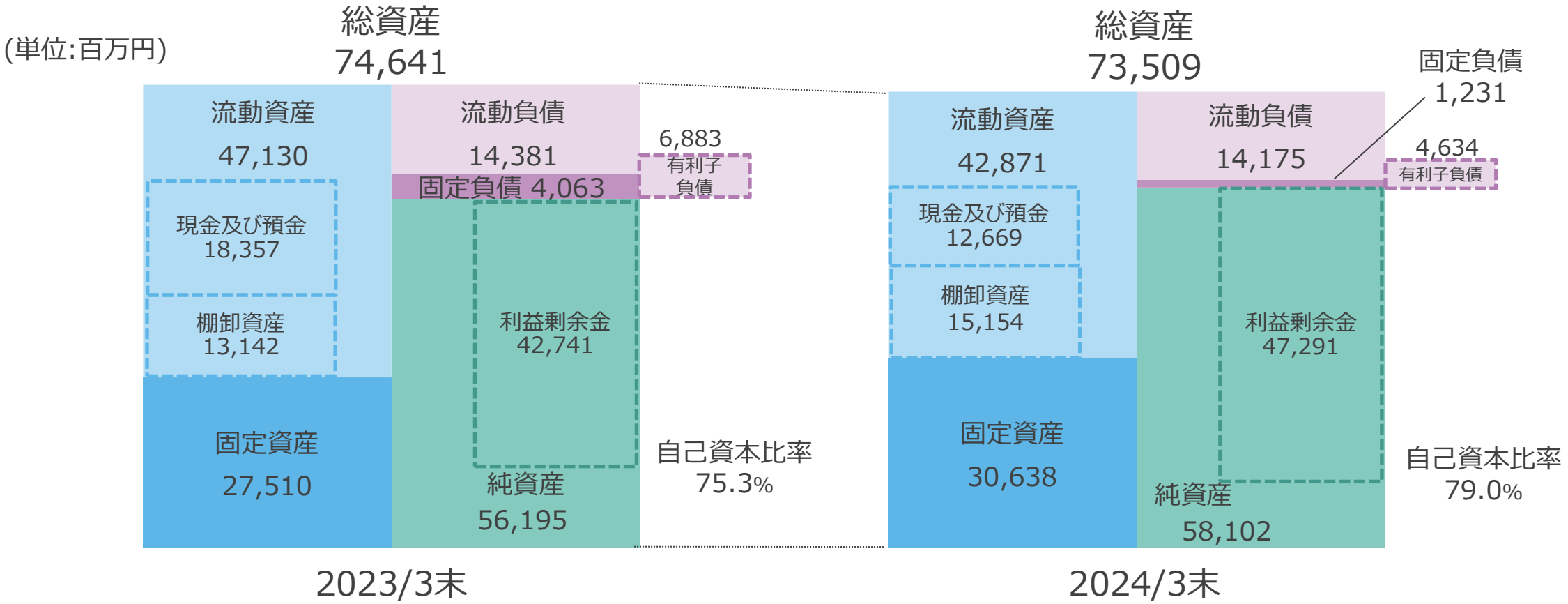
✓ 販売は概ね堅調推移だったものの、Baylis社製品の商流変更とコスト増がかさみ、**営業減益**



*1 取引先への売上債権の一部に回収懸念が発生したことにより、貸倒引当金繰入を計上

2024/3期 連結貸借対照表（前期末vs当期末）

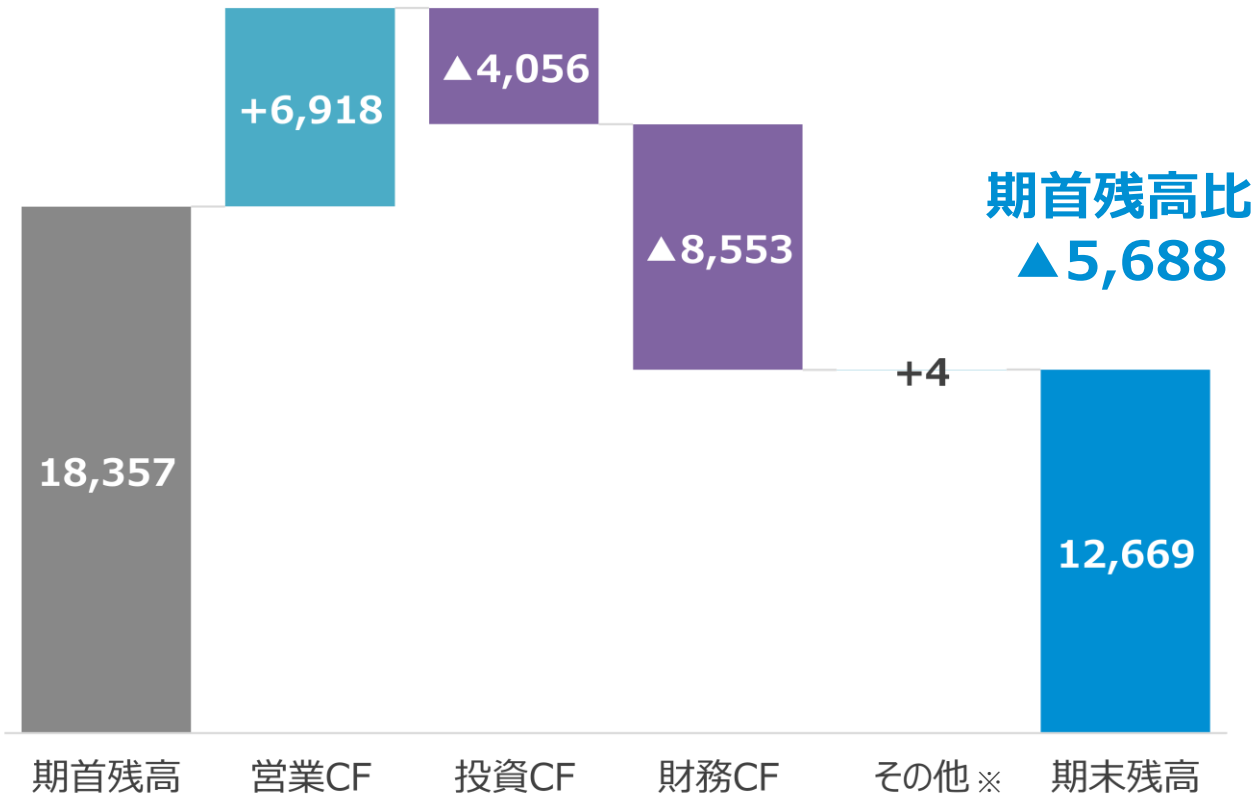
- ✓ 流動資産は42億円減少 ⇒ 棚卸資産＋20億円、現金及び預金▲56億円 等
- ✓ 固定資産は31億円増加 ⇒ 投資有価証券＋21億円、設備取得＋9億円 等
- ✓ 固定負債は28億円減少 ⇒ 退職給付引当金▲22億円 等
- ✓ 有利子負債は21億円減少 ⇒ 短期借入▲15億円、長期借入▲5億円 等



2024/3期 連結キャッシュフロー（通期）

✓ 期末時点で、現金及び現金同等物は、期首残高から▲5,688百万円減少

(単位:百万円)



※ 現金及び現金同等物に係る換算差額

■営業CF +6,918百万円

【増 加】
- 税金等調整前四半期純利益 ＋10,575
- 減価償却費 ＋1,471
- 仕入債務の増加 +824

【減 少】
- 法人税等の支払 ▲2,916
- 棚卸資産の増加 ▲2,011
- 退職給付に係る負債の減少 ▲1,886

■投資CF ▲4,056百万円

【減 少】
- 投資有価証券の取得 ▲2,263
- 有形固定資産の取得 ▲2,123

■財務CF ▲8,553百万円

【減 少】
- 自己株式の取得 ▲3,319
- 配当金の支払 ▲2,965
- 有利子負債の返済 ▲2,268

事業環境 現時点から6か月先の見通し

Japan Lifeline

✓ Q単位で売上高に影響する要素をポジティブ、ニュートラル(前Qから状況変わらず)、ネガティブの3段階で表す
✓ 前回の見解から変更がある場合は、前回の見解を併記してコメントを赤字で記す

メイン区分	サブ区分	2024/3期 Q4 実績		2025/3期 Q1 予想		2025/3期 Q2予想	
リズムディバイス	ペースメーカ関連	→	前Qから大きな変化なし(自主回収関連の交換増加、他社製品との競争)	→	直前Qから大きな変化なし(交換増加・他社リードレス製品との競争)	↘	単価下落(保険償還改定)、リコール関連の交換減少
	ICD関連	→	直前Qから大きな変化なし(S-ICD堅調)	→	直前Qから大きな変化なし(S-ICD堅調)	↘	S-ICD堅調も、T-ICD等で単価下落(保険償還改定)
EP/アブレーション	EPカテーテル	→	直前Qから大きな変化なし(AF症例堅調)	→	直前Qから大きな変化なし(AF症例堅調)	→	直前Qから大きな変化なし(AF症例堅調) 単価下落は数量増で相殺
	ABLカテーテル	→	直前Qから大きな変化なし(HeartLight X3販売鈍い)	→ 前回:↗	直前Qから大きな変化なし(拡販遅れ)	→	直前Qから大きな変化なし(拡販遅れ)
	その他	↗	止血デバイスの販売加速	↗	直前Qより止血デバイスの拡販さらに進む	↗	直前Qより止血デバイスの拡販さらに進む。スティーラブルシースの新製品
心血管関連	人工血管関連	→ 前回:↗	直前Qから大きな変化なし(季節性の増), OSG*1伸長	↘	季節性の減、OSGは伸長	→	直前Qから大きな変化なし(季節性の減), OSGは伸長
脳血管関連	脳血管関連	↗	塞栓用コイルの販売増⇒新商品の導入効果	→ 前回:↗	直前Qから大きな変化なし マイルドな成長	↗	マイクロカテーテル、ステントリトリーバー発売、既存品とのシナジー
消化器	消化器(消化管、胆膵)	→	前Qから大きな変化なし(胆管チューブステントのシェア一巡)	→	直前Qから大きな変化なし	↗	Q1上市の胆膵ガイドワイヤの寄与開始、胆管チューブステントの拡販

*1 オープンステントグラフト

凡例：↗ 前Qより(さらに)上向き　→ 前Qから概ね横ばい 良好な環境は継続　↘ 前Qより(さらに)下向き　→ 前Qから概ね横ばい 好ましくない環境は継続

当期のIRニュース（適時開示以外のPR情報）1/2

(前期)本決算発表以降

- 2023-05-10 血栓吸引カテーテルの販売開始に関するお知らせ
- 2023-06-01 医師向け会員制WEBサイト「JLLプラス(JLLplus)」がオープン
- 2023-06-05 スポンサードレポートの発行のお知らせ
- 2023-06-19 医療機器における品質マネジメントシステムの国際規格MDSAP認証を取得
- 2023-06-28 大腿静脈用止血デバイスの独占販売契約の締結に関するお知らせ

Q1決算発表以降

- 2023-08-09 「JPX日経中小型指数」構成銘柄への選定に関するお知らせ
- 2023-08-21 オープンステントグラフトの新製品「Frozenix Partial ET」の販売開始のお知らせ
- 2023-10-05 2023年度グッドデザイン賞 受賞のお知らせ
- 2023-10-17 大腿静脈用止血デバイス「VASCADE MVP」の保険適用のお知らせ
- 2023-10-27 経カテーテル生体弁の独占販売契約の締結に関するお知らせ

当期のIRニュース（適時開示以外のPR情報）2/2

Q2決算発表以降

- 2023-12-06 スポンサードレポートの発行のお知らせ
- 2023-12-25 コーポレートガバナンスに関する報告書(更新)
- 2024-01-23 統合報告書の発行のお知らせ

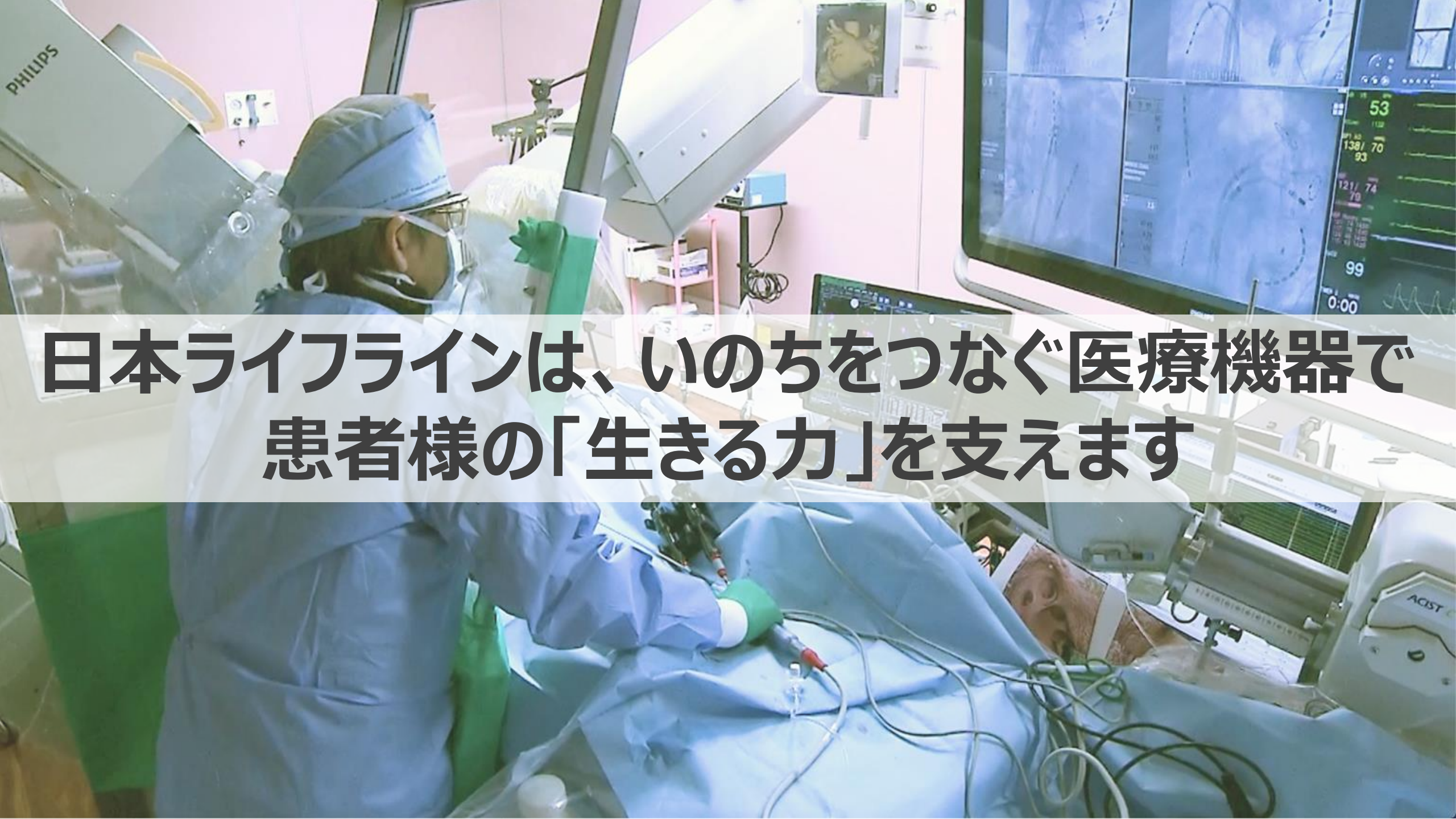
Q3決算発表以降

なし

会社概要

商号	日本ライフライン株式会社
代表者	代表取締役社長　鈴木啓介
本社	東京都品川区東品川2-2-20　天王洲オーシャンスクエア
設立	1981年2月6日
上場市場	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	7575
事業内容	医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売
資本金	2,115百万円
決算期	3月31日
従業員数	連結1,216名/単体953名(2024年3月31日 現在)
事業所	営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティックスセンター、関西ロジスティックスセンター、 研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、 天王洲ACCADEMIA(研修センター)(2024年3月31日 現在)
連結子会社	JLL MALAYSIA SDN. BHD.

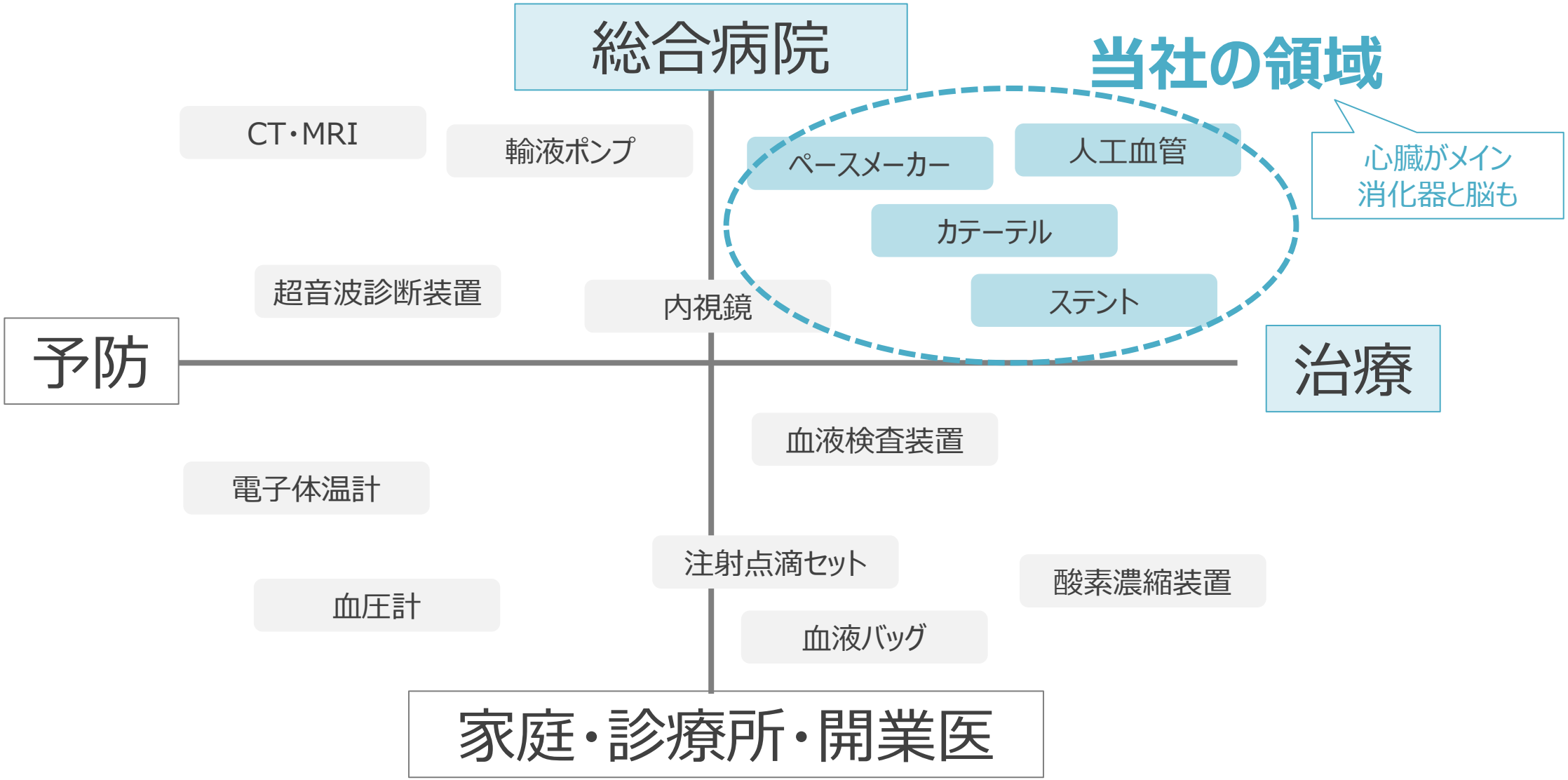
投資家様向け会社紹介資料



日本ライフラインは、いのちをつなぐ医療機器で
患者様の「生きる力」を支えます

Japan Lifeline

心臓の手術で使われる高機能な医療機器に特化



主な取扱製品のイメージ

心臓関連



ペースメーカー



ICD

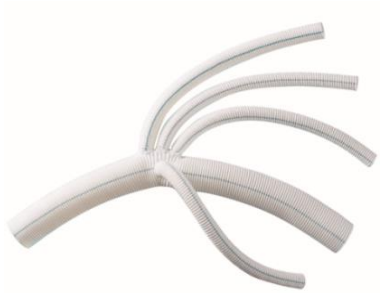


電気生理カテーテル



止血デバイス





人工血管

脳血管関連

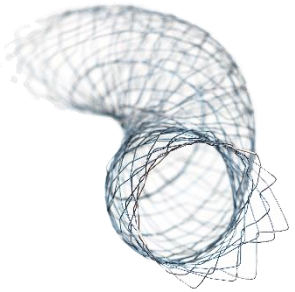


塞栓用コイル



血栓吸引カテーテル

消化器関連



消化管ステント



肝がん治療デバイス

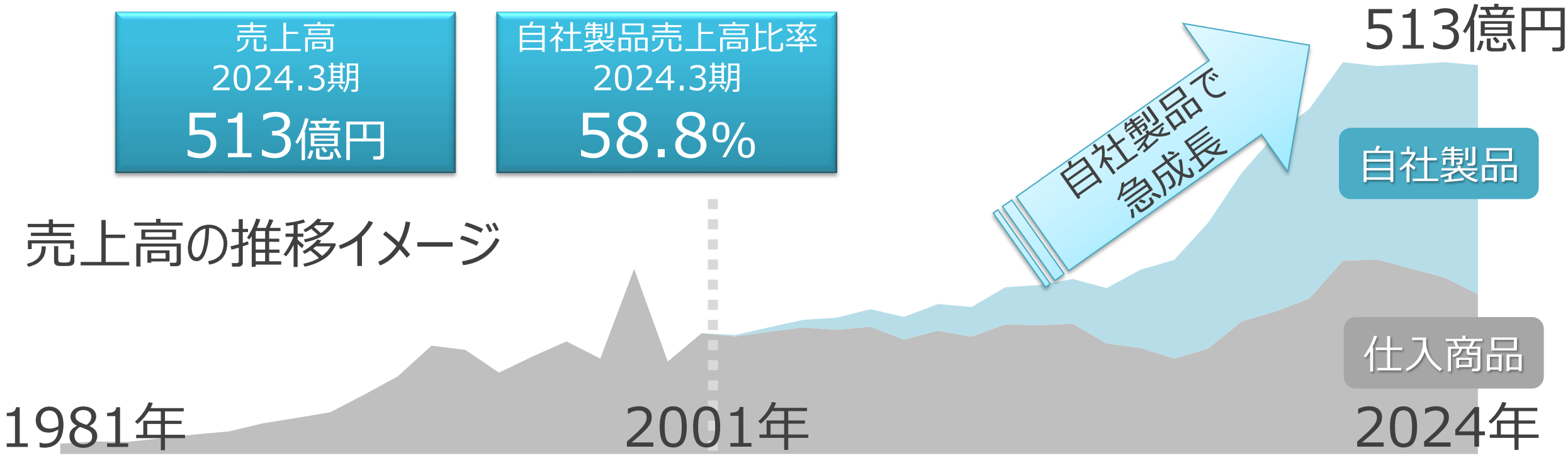


胆管チューブステント

医療機器の輸入商社からメーカーに乗り出す異色の経歴
心臓病の治療ニーズを捉える自社製品で急成長

売上高
2024.3期
513億円

自社製品売上高比率
2024.3期
58.8%



Q.なぜ商社・メーカーのハイブリッドとなったのか？

Japan Lifeline

A.海外の製品で満たせない**日本独自のニーズ**に応えたい

商社として

**“優れた海外の医療を
より早く医療現場へ**

2001年～
メーカー開始

メーカーとして

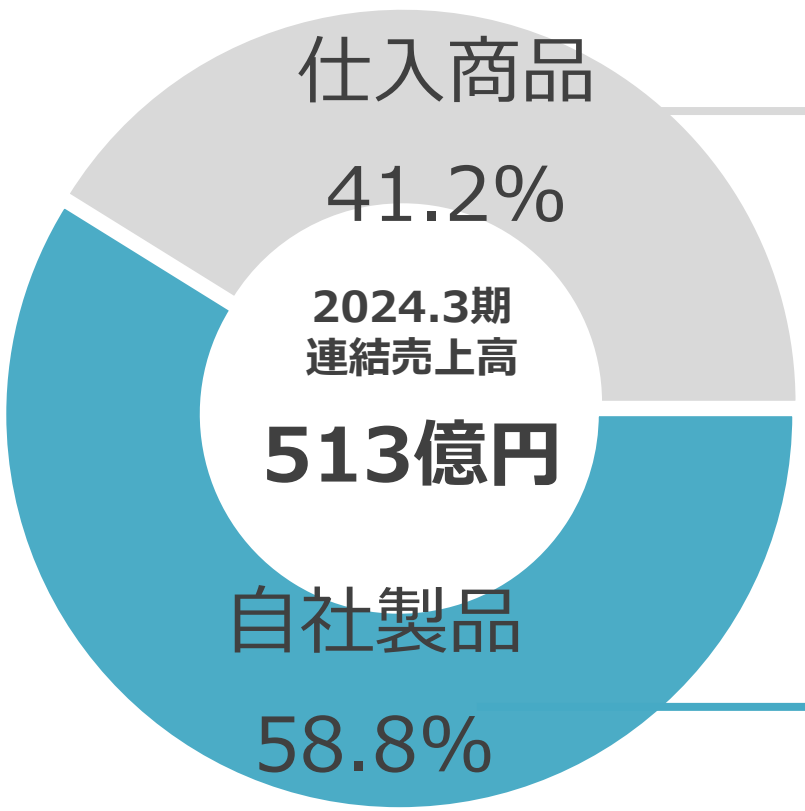
**“より日本のニーズに合う
使いやすい医療機器を**



創業者
代表取締役社長　鈴木 啓介

海外の製品は必ずしも
日本人の体格や日本の医療ニーズ
に対応できていないのでは…？？

自社製品・仕入商品ともに高い粗利率
業界でもトップクラスの収益性を確保



仕入商品粗利率
約40%

自社製品粗利率
約70%

売上総利益率
約60%

営業利益率
約20%

医療機器が手術で使用されるたびに売上が発生する収益構造
手術数が増えれば、売上が拡大する

Japan Lifeline



全国の営業拠点

当社セールス



※この段階では
売上は立たない

①直接営業

③支払

医療機関

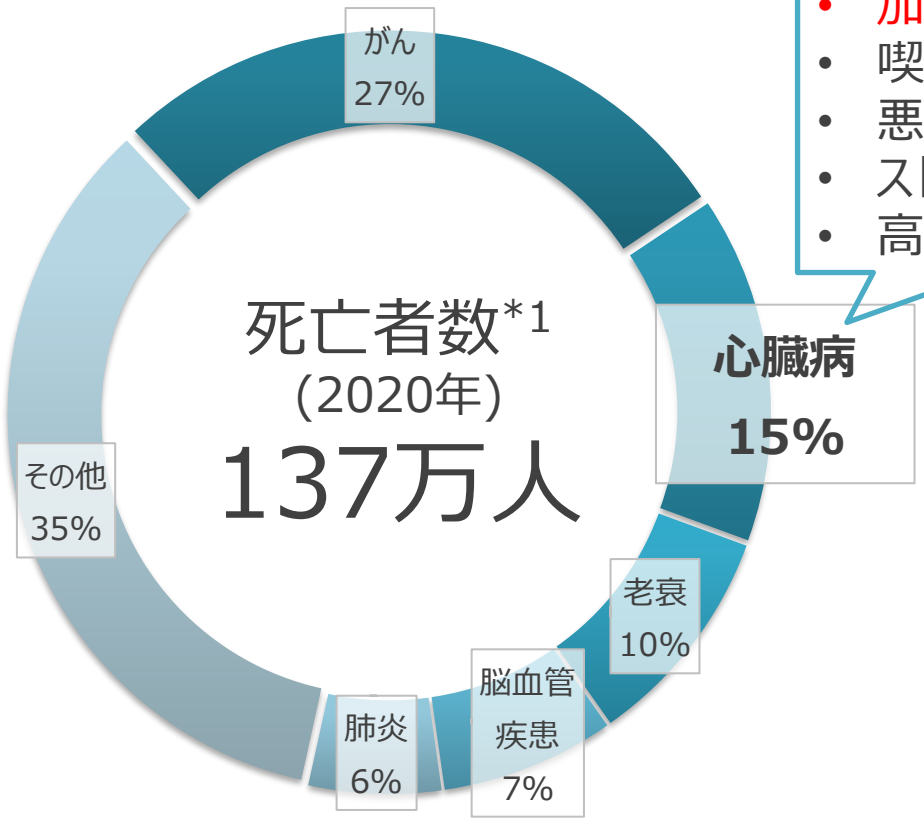


②手術で使用

ここで売上を認識

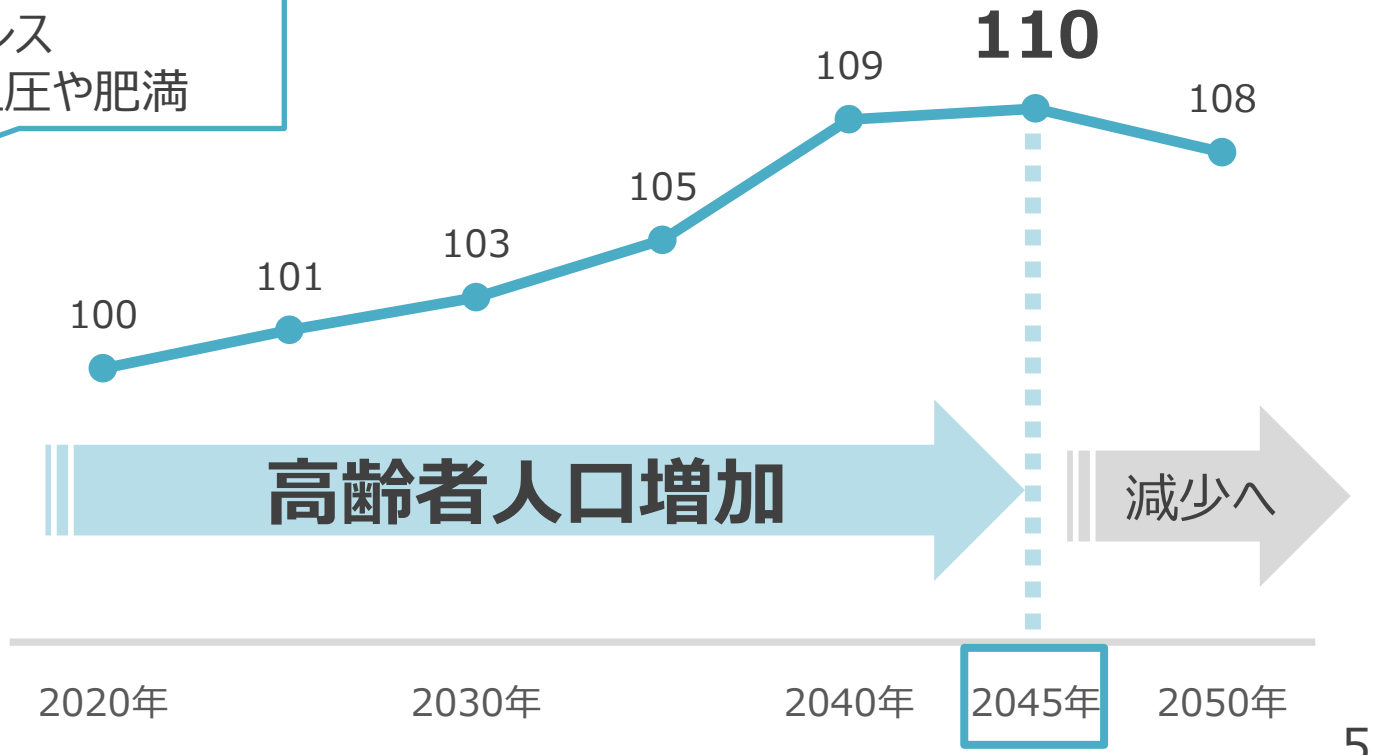
心臓病は加齢が主要因。死因としてはがんの次に多い
高齢者人口は今後も確実に増加し、心臓病患者も増え続ける

国内の死因トップ5



- 加齢(最大因子)
- 喫煙
- 悪い生活習慣
- ストレス
- 高血圧や肥満

65歳以上人口の推移予測
(2020年＝100として指数化)*2



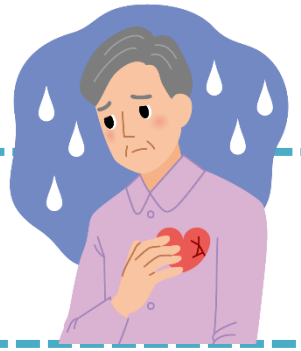
*1 厚生労働省 令和2年(2020年)人口動態統計
*2 内閣府　令和5年(2023年)版高齢社会白書

加齢や悪い生活習慣により、心臓や血管への負担が蓄積されると、様々な症状が現れる

心臓の病気



- **血管の詰まり**（心筋梗塞）
- **リズムの乱れ**（不整脈）
- **ポンプ機能の低下**（心不全）



当社の得意領域①

心臓から出ている大きな血管の病気

- **大きな血管の破れ**（大動脈瘤・解離）



当社の得意領域②

Japan Lifeline

心臓手術で使われる医療機器で高いシェアを獲得

リズムの乱れ
(不整脈)

EPカテーテル



国内シェア



ICD



国内シェア



大きな血管の破れ
(大動脈瘤・解離)

人工血管



国内シェア



ステントグラフト



国内シェア



不整脈の治療では、「**根本治療を目指す手術**」が広く普及

不整脈　主な症状：動悸、息切れ、めまい、不快感、失神など

症状	ソリューション
脈が速すぎる 100回/分以上	**根治を目指す手術** **約9万件**/年（2023年）*1
脈が遅すぎる 40回/分以下	心臓ペースメーカ 約6万件/年 (2023年) 
脈が飛ぶ	多くは経過観察で治療不要

不整脈の手術のイメージ



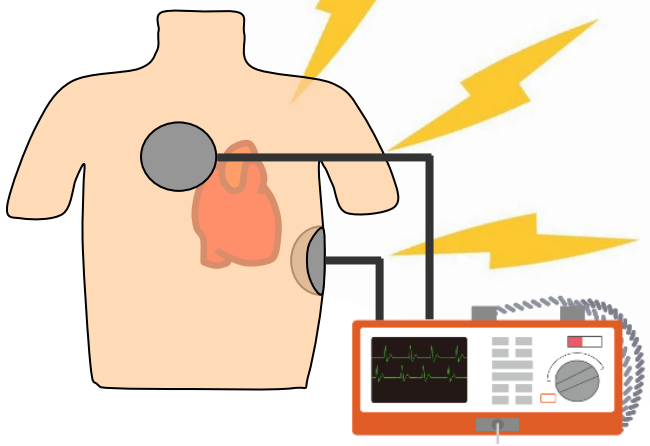
心臓の中の悪い組織を「焼く」ことで原因を取り除く。
通常、局所麻酔で、所要時間は２～３時間程度
術後、翌々日に退院される方も多い

*1 心房細動のアブレーション症例数。件数は自社調査による

Japan Lifeline

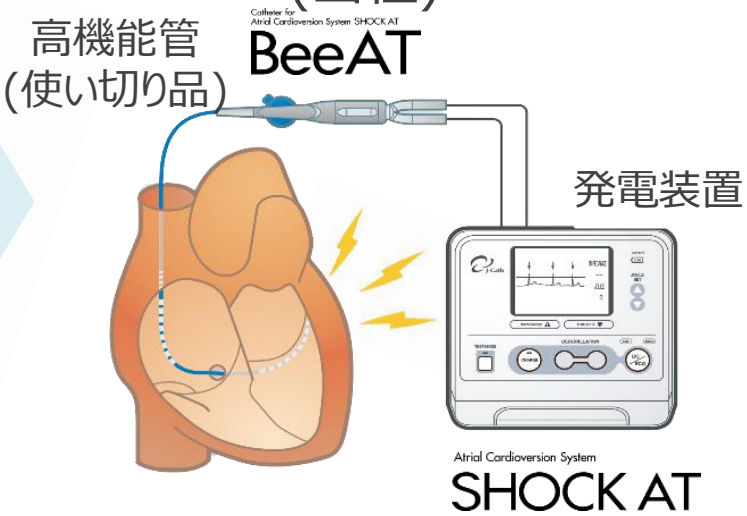
従来型の1/10の電気ショックで患者様の負担を軽減
オンリーワン自社製品として業績のメインドライバーに成長

体の外から電気ショック
(従来型)



身体を電極パッドで挟み、
強い電気ショックを与える

心臓の中から電気ショック
(当社)

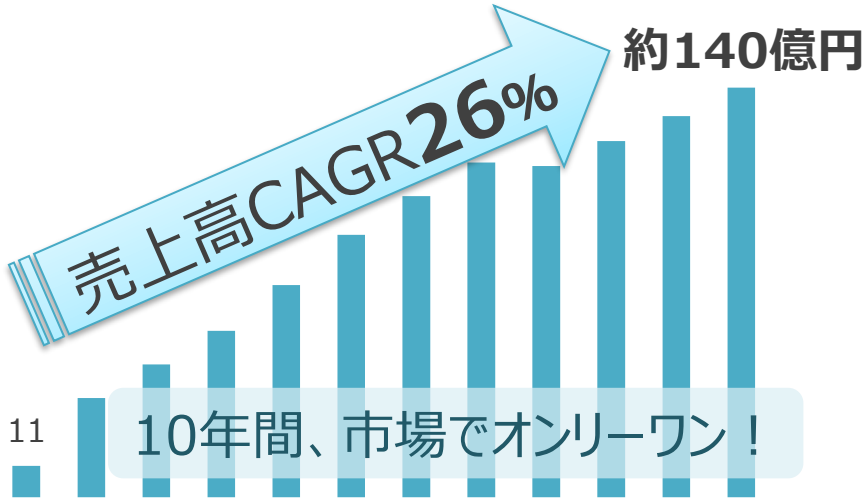


従来型の1/10の
弱い電気ショックを与える
(患者様の負担軽減)

手術における
当社の電気ショックシステムの採用率

80%以上

単位：億円



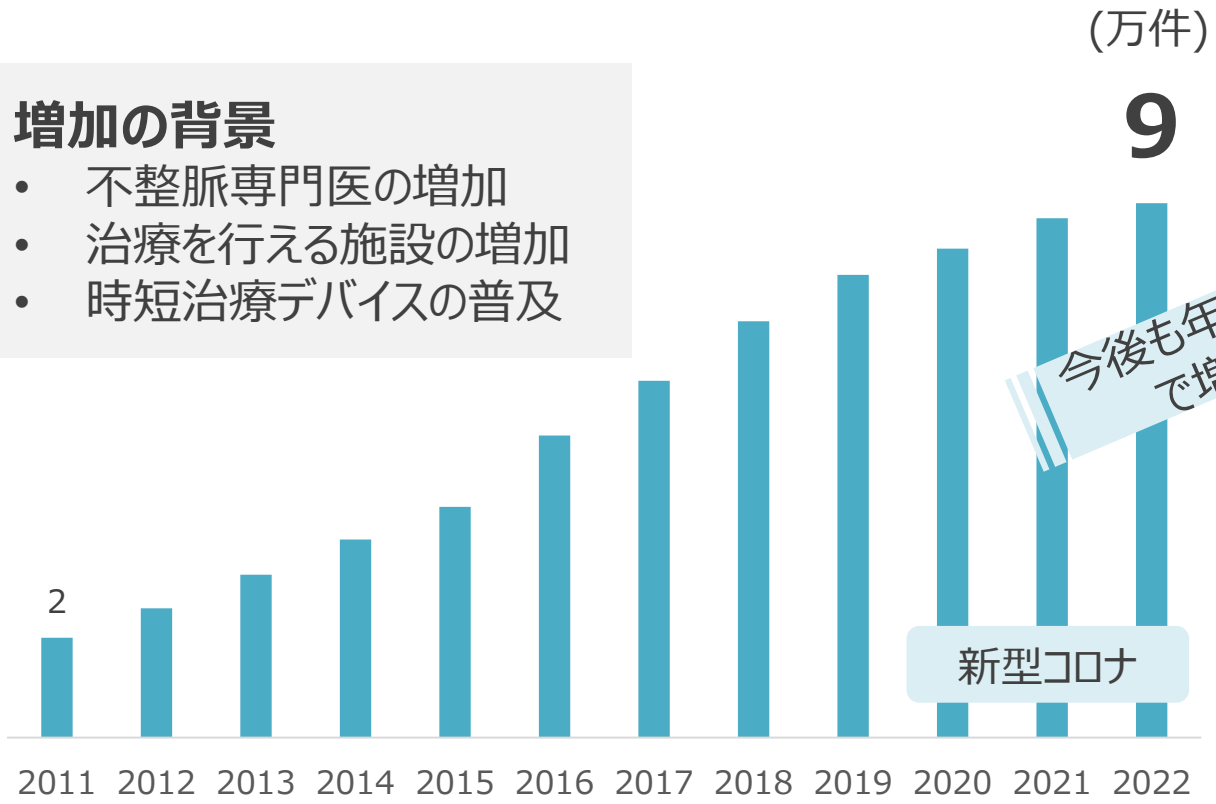
※電気ショックは手術中に発生する不整脈を止めるために行われます

不整脈手術の件数予測

Japan Lifeline

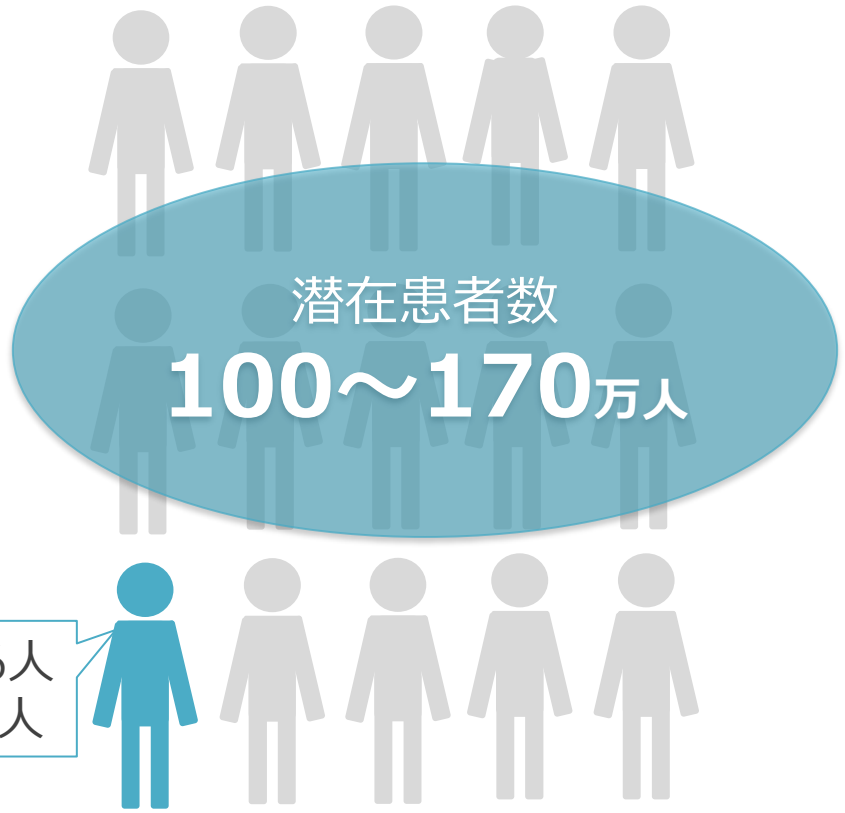
潜在患者数は現状の治療件数の10倍以上
今後も、高齢化の進展で治療件数は増加へ

不整脈の手術件数*1の推移



増加の背景
- 不整脈専門医の増加
- 治療を行える施設の増加
- 時短治療デバイスの普及

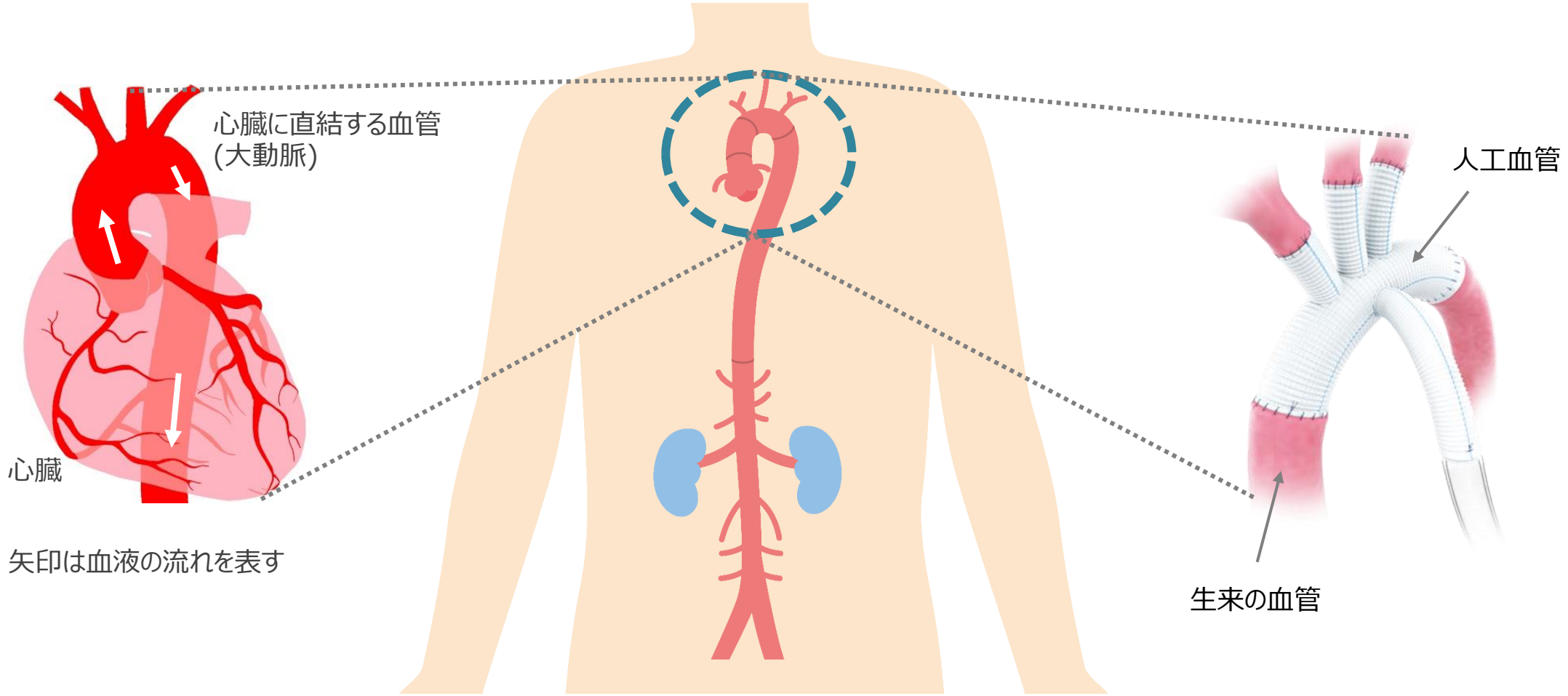
今後も年6～8%で増加へ



*1 心房細動のアブレーション症例数。件数は自社調査による

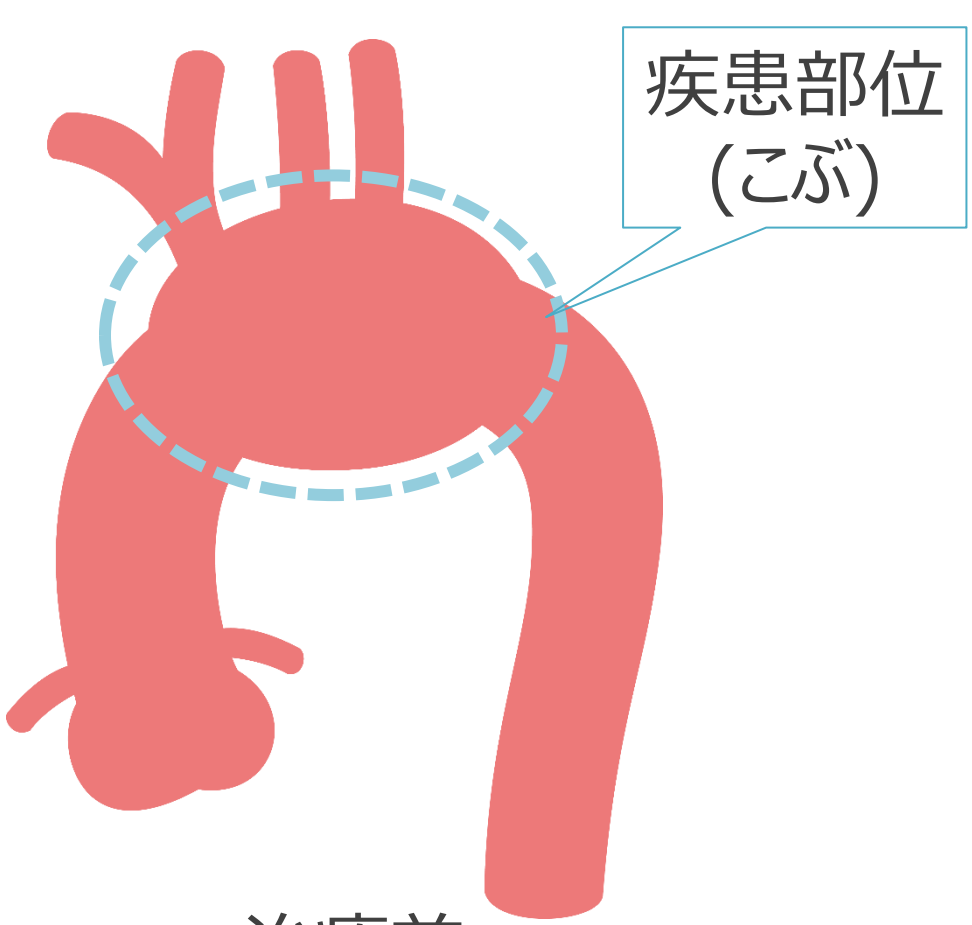
Japan Lifeline

心臓に直結する動脈の「こぶ」や「裂け」は、非常に危険
外科手術では損傷部位を**人工の血管**に置き換えて治療

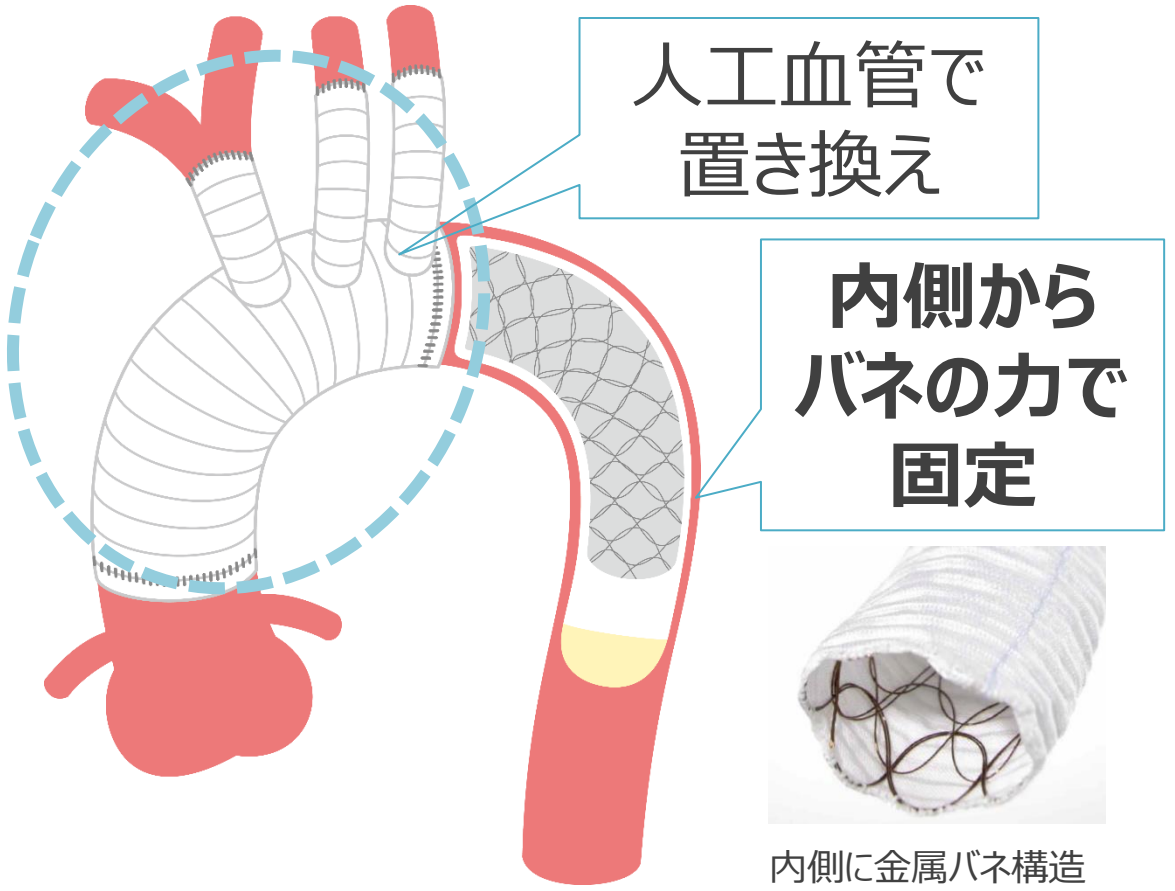


人工血管に「縫わずにバネの力で固定」する独自の新構造

これまで2回必要だった手術が1回で完結



治療前



内側に金属バネ構造

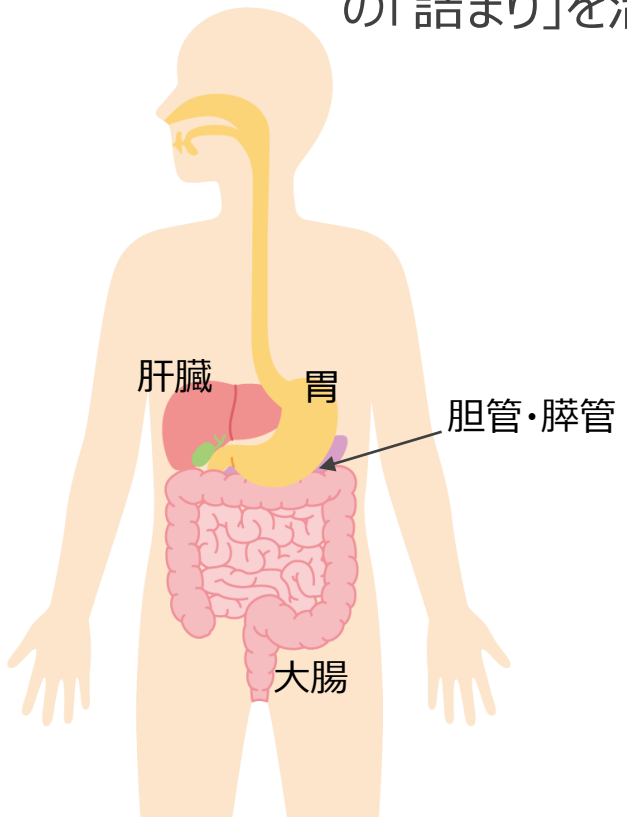
治療後

Japan Lifeline

消化器：心臓領域の独自技術を応用して自社製品で参入
脳血管：業界一のラインナップを誇る有力メーカーの商品を独占販売

消化器（2017年～）

消化器官(大腸・胃十二指腸・胆管など)の「詰まり」を治療



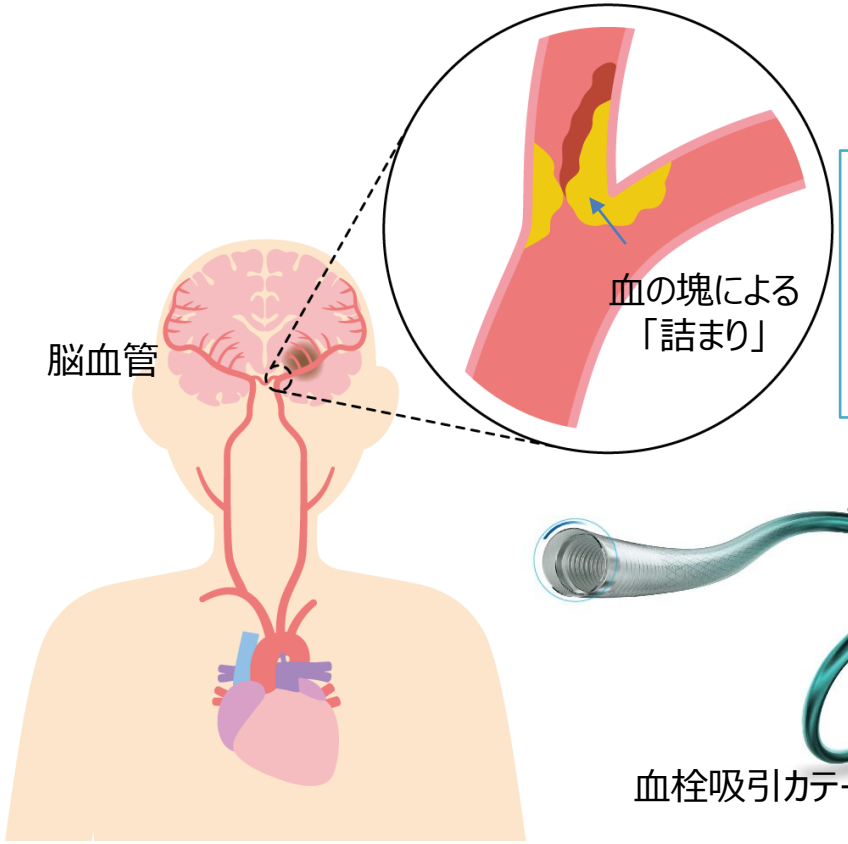


胆管用
チューブステント

胆管の詰まりを解消するためのプラスチック製の管

脳血管（2022年～）

脳の血管の「詰まり」や「こぶ」を治療



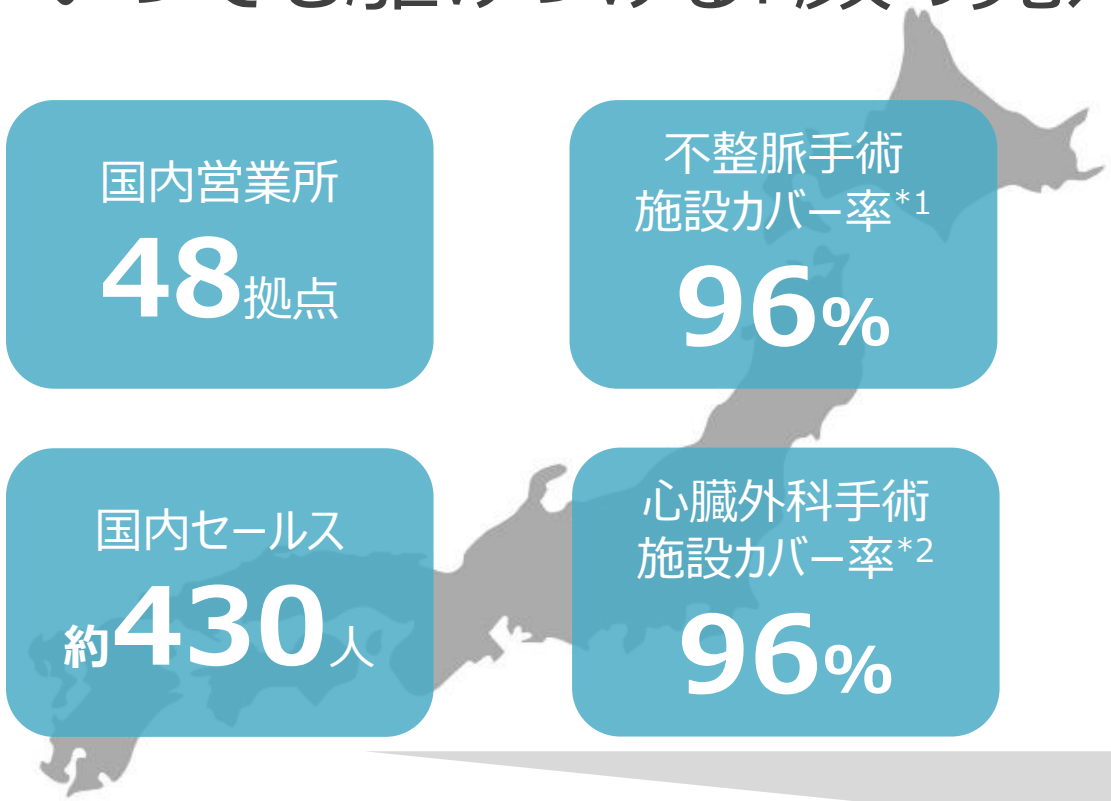
脳の血管に詰まった血の塊を掃除機のように吸い取る極細の管

血栓吸引カテーテル

強み①　業界随一の販売力

Japan Lifeline

全国に整備した営業体制は業界トップクラス
いつでも駆けつける「顔の見える営業」で信頼を獲得



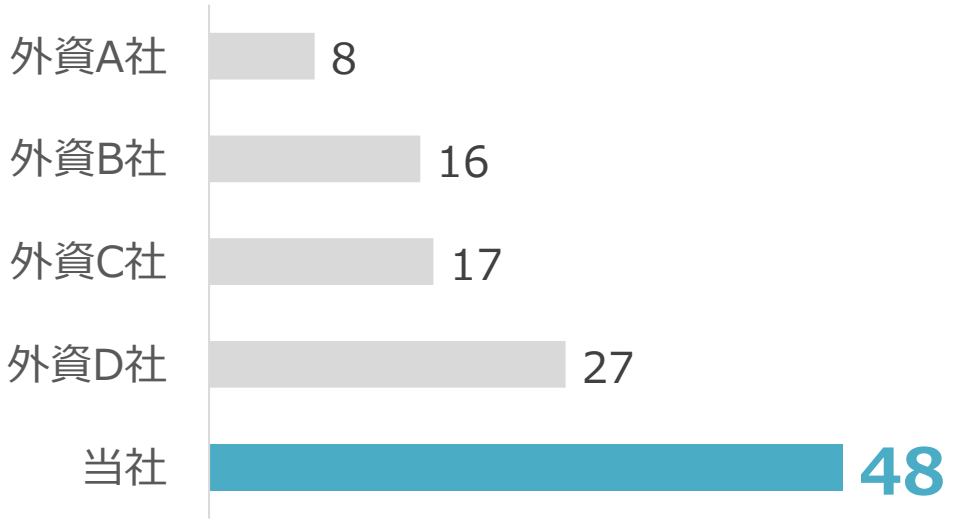
国内営業所
48拠点

不整脈手術
施設カバー率*1
96%

国内セールス
約**430**人

心臓外科手術
施設カバー率*2
96%

当社と主な競合外資の営業拠点数の比較



海外の有力メーカーとの独占販売契約を数多く獲得

*1 国内の不整脈手術(アブレーション実施施設)は約770施設
*2 国内の心臓外科手術施設数は560施設程度(2023年、当社調べ)

直径2mmの手術用極細管に独自ノウハウを詰め込む
医師にとって日々の手術に欠かせない製品を提供

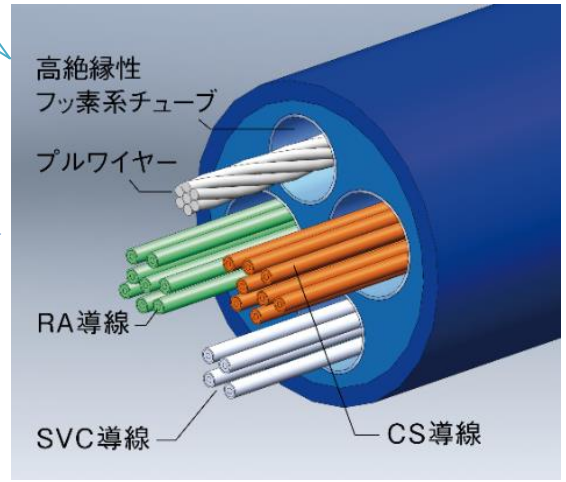
中に複数のワイヤーを通せることで高機能を付加



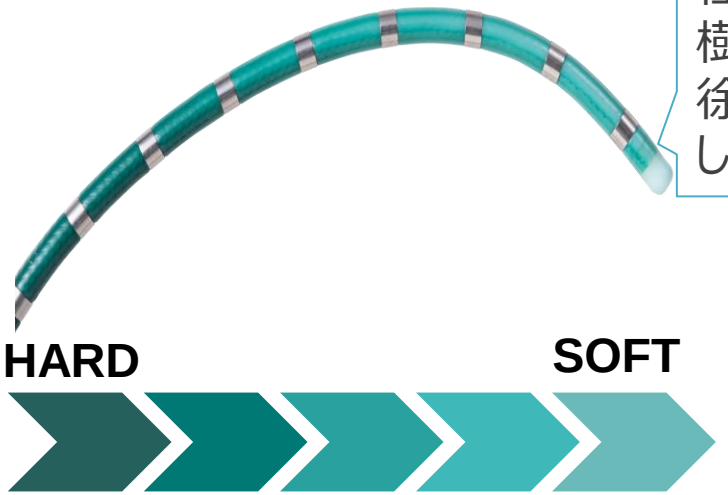
血管の中を通って患部に到達する検査や治療用の極細管

断面図

独自技術①
「れんこん」の形状



独自技術②
なだらかな硬度変化



性質が異なる複数の樹脂を配合比率を徐々に変えながら押し出して成形

高機能で壊れにくく、手になじむ自然な操作感覚
これらの特長を安価に実現できるのは当社だけ

当社の商社機能は海外発の医療機器の国内上市・販売を包括的に請け負う高付加価値型(≠単なる卸売り)

ポジショニングの比較

	当社	他社大手卸
立場	メーカーに準ずる	一次販売代理店
独占販売権	あり	なし
製造販売責任	あり (多くの場合)	なし
在庫負担	あり	なし
売上総利益率 (24.3期)	**約40%** (商社機能のみ)	10%程度

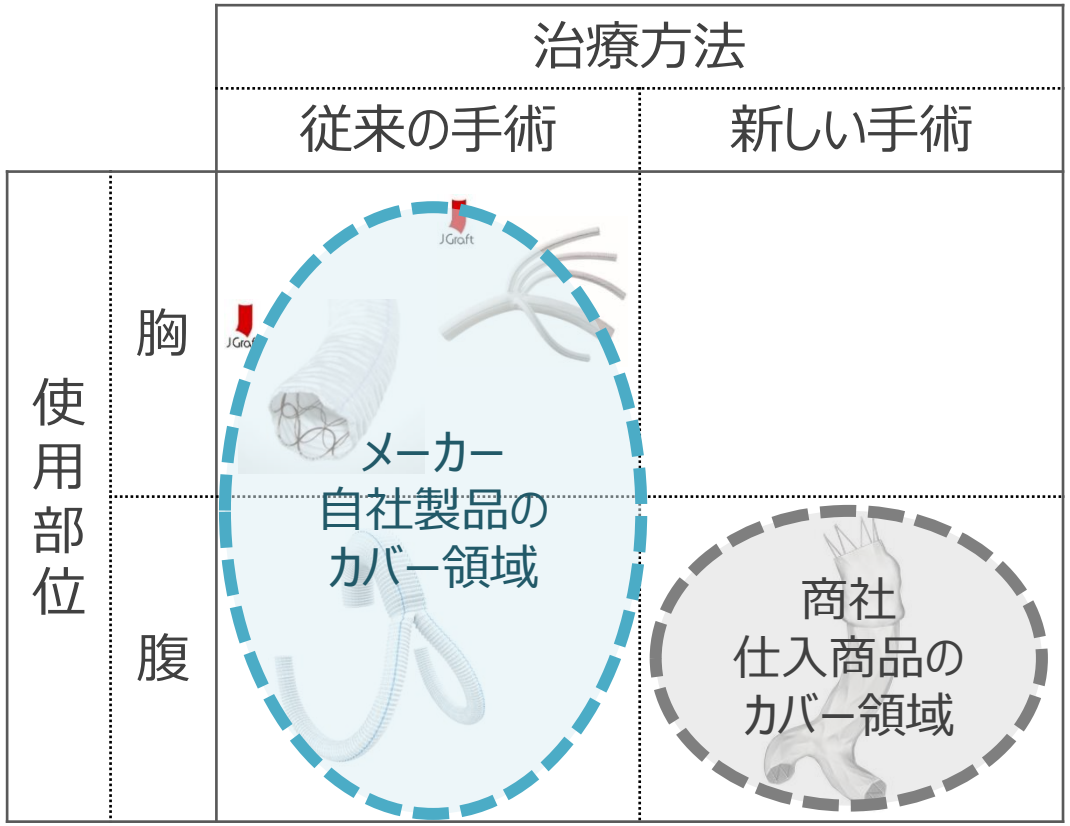
カバーする業務の比較

	当社	他社大手卸
市場調査	◎	–
臨床開発	◎	–
薬事申請	◎	–
マーケティング戦略	◎	–
営業	◎	◎
安全・品質管理	◎	○
在庫管理・物流	◎	○
納品・付帯業務	○	◎

◎＝コア業務、○＝ノンコア業務

自社製品でスタンダードな治療パターンを押さえつつ、仕入商品で最先端領域も戦略的にカバー

大動脈の治療の例～



メーカー　差別化された自社製品でベーシックなニーズに高い水準で応える

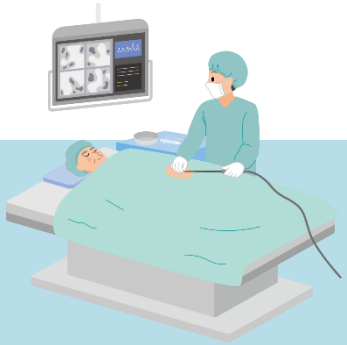
×

商社　海外の最先端テクノロジーを素早く導入して長期独占販売

＝

組み合わせによって他社に真似できないプロダクト・ポートフォリオを構築

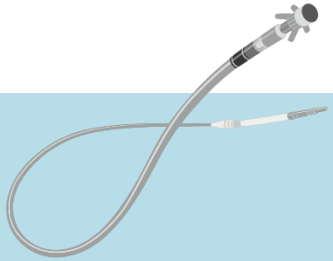
取扱い品のほとんどが手術に必須な高付加価値の使い切り品
手術件数が増えるほどキャッシュを獲得



手術件数

- 「置き薬」や「百貨店」と同じで、毎回の手術における使用で課金
- 高齢化で件数は増加

×



単価

- 高リスクな手術で用いられる単回使用の高付加価値品



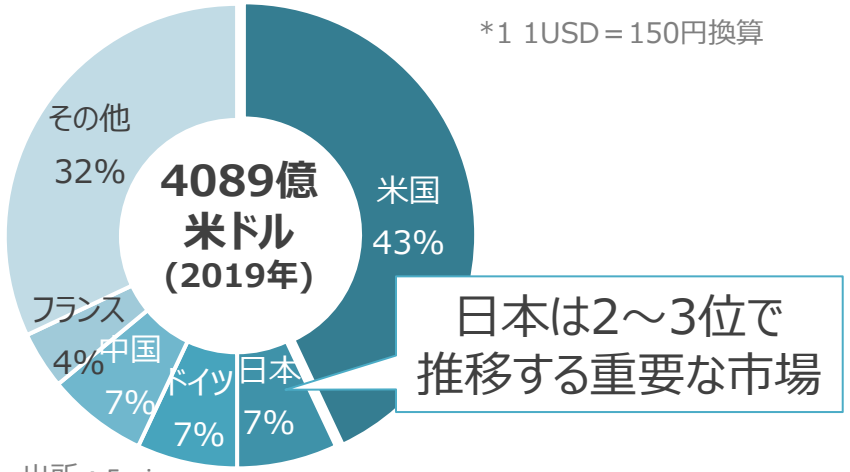
継続的な営業キャッシュフロー

高い参入障壁
(高度医療のノウハウ・全国販売網)

世界中で高齢化が進行。堅調な市場成長を見込む

グローバル
4,000億ドル
(約60兆円*1)
CAGR 6 %

グローバル医療機器市場の内訳



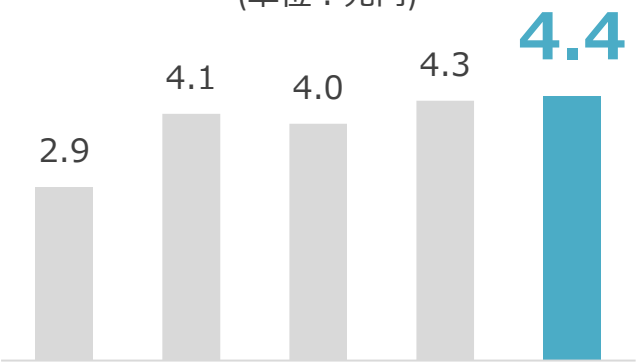
*1 1USD＝150円換算

日本は2～3位で
推移する重要な市場

出所：Espicom

国内
4～5兆円
CAGR 3～4 %

国内医療機器市場規模の推移
(単位：兆円)



出所：厚生労働省 薬事工業生産動態統計年報

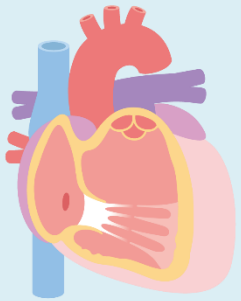
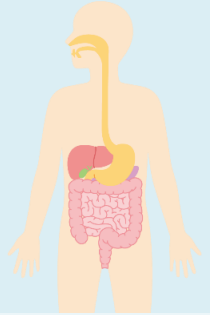
心臓関連に軸足を置きつつ、成長市場の脳・消化器を開拓

国内市場規模
約4~5兆円

体温計や注射針からMRIや人工インプラント臓器まで
4,000分類、30万品目以上の**非常に細分化された市場**

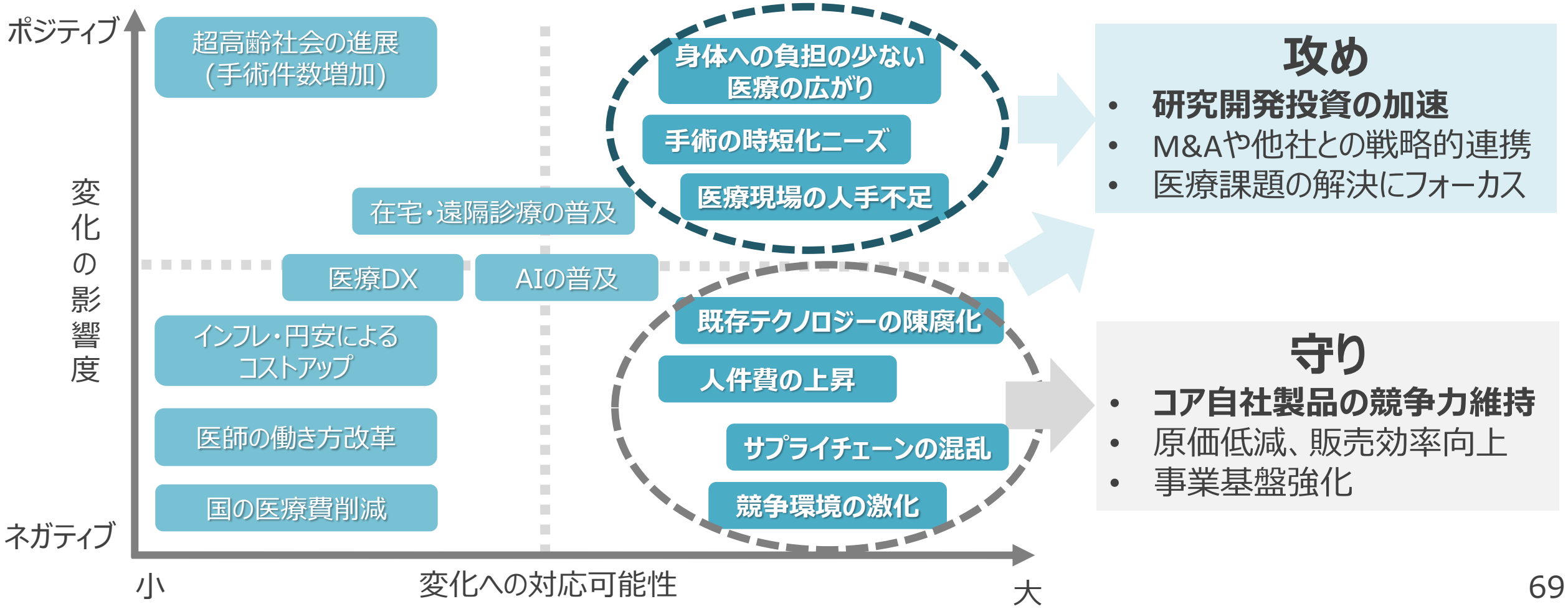
当社が関連する市場 約5,000億円

～現有の製品群で約6割(3,000億円)をカバー～

心臓	脳	消化器
		
約4,000億円 **巨大な安定市場**	**約400億円** **高成長(年8%)**	**約600億円** **安定成長**

Japan Lifeline

当面は**コア自社製品の競争力維持**が最も重要と認識
そのうえで、**次世代の変化を見極めた投資**を継続



攻め

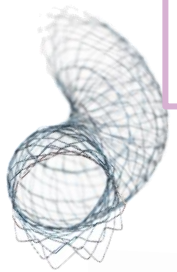
- **研究開発投資の加速**
- M&Aや他社との戦略的連携
- 医療課題の解決にフォーカス

守り

- **コア自社製品の競争力維持**
- 原価低減、販売効率向上
- 事業基盤強化

専門性が高い**心臓領域に特化**

消化器の詰まりを
解消するステントなど

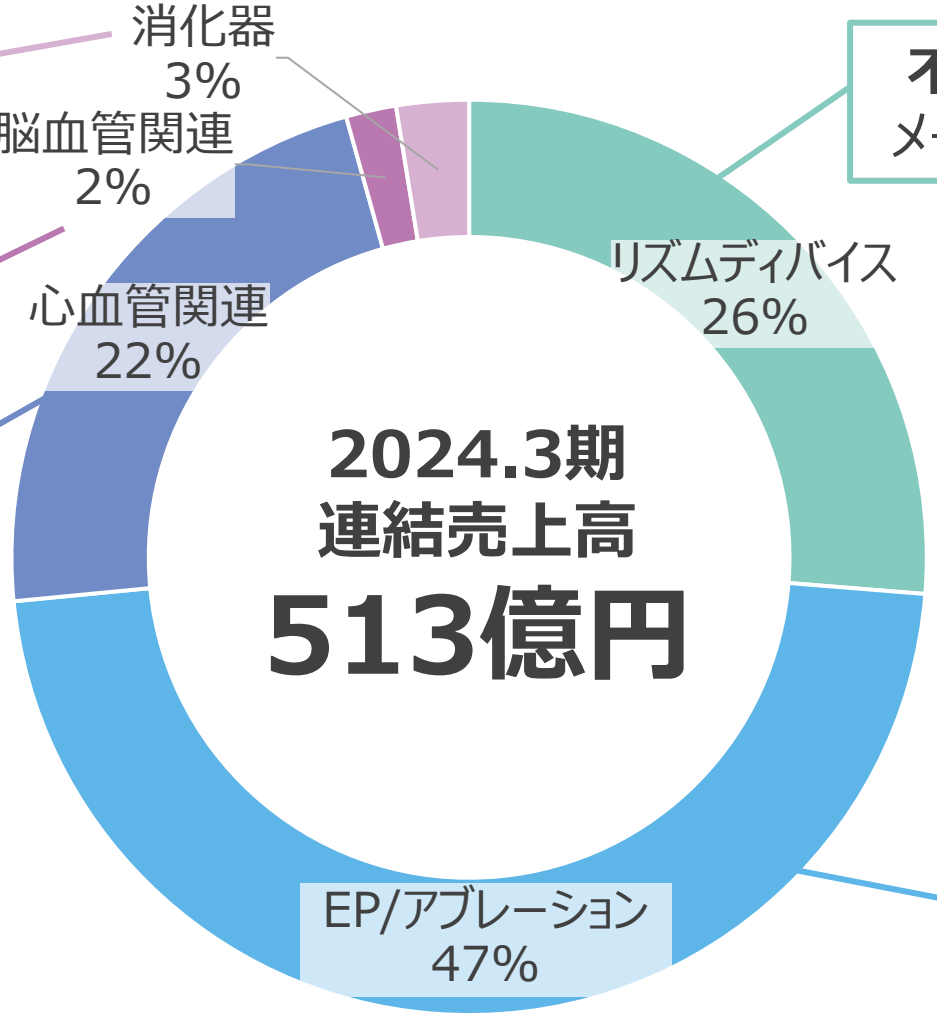


脳血管の詰まりを
解消する管など

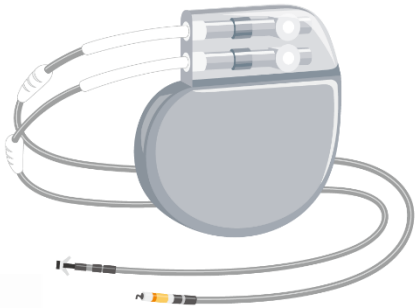


大動脈の外科手術で
使われる人工臓器など





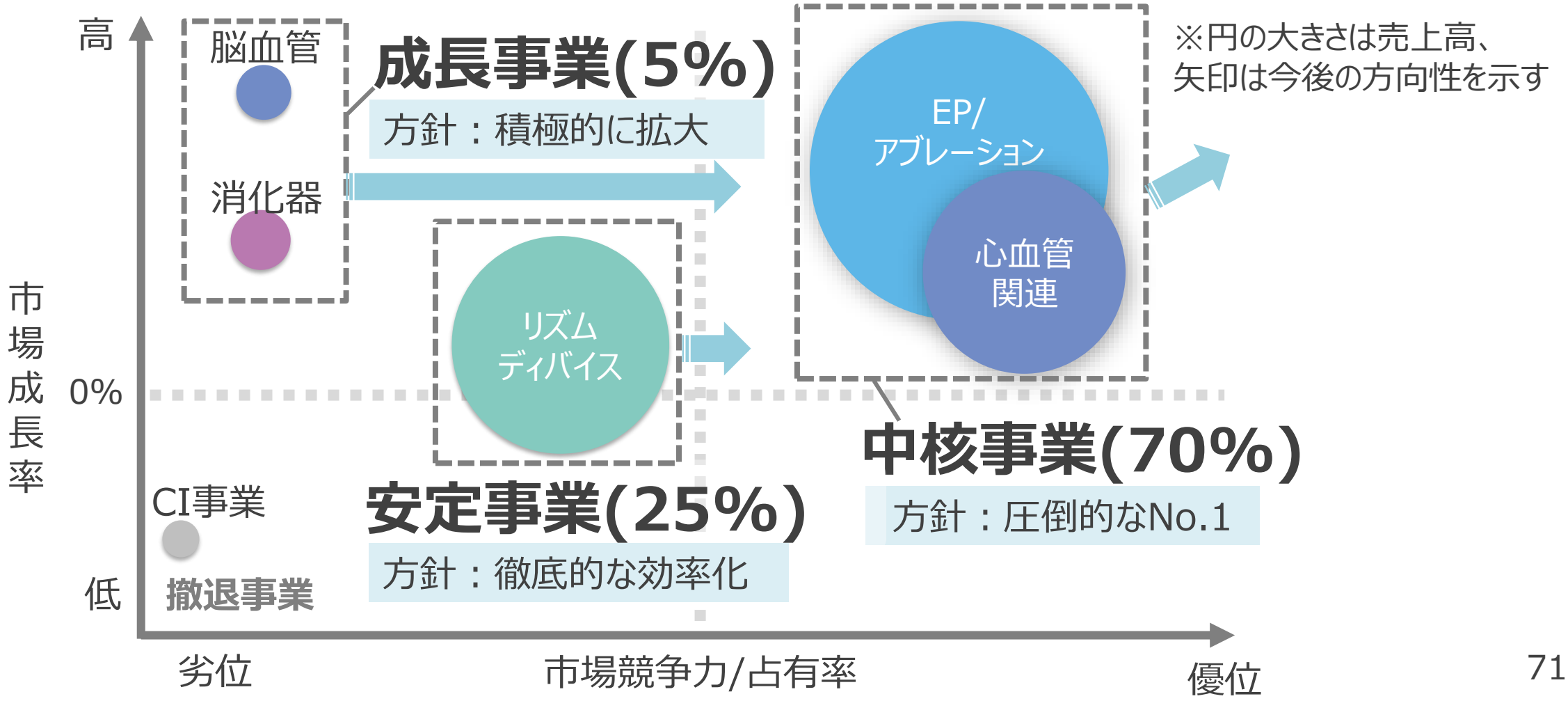
不整脈を治療する心臓ペース
メーカなどの体内植込み型機器





不整脈手術で使われる
極細の医療用管など

現状、成長余力の高い事業が7割を占める
今後、成長性の高い市場でのプレゼンス向上も図る



着実な事業成長と魅力的なリターンの両立を目指す

着実な事業成長			魅力的なリターン	
売上高	新領域売上高	営業利益率	EPS	ROIC
630億円	**80億円**	**20%水準**	**120円**	**12%**
(2028.3期)	(2028.3期)	(毎期)	(2028.3期)	(2028.3期)

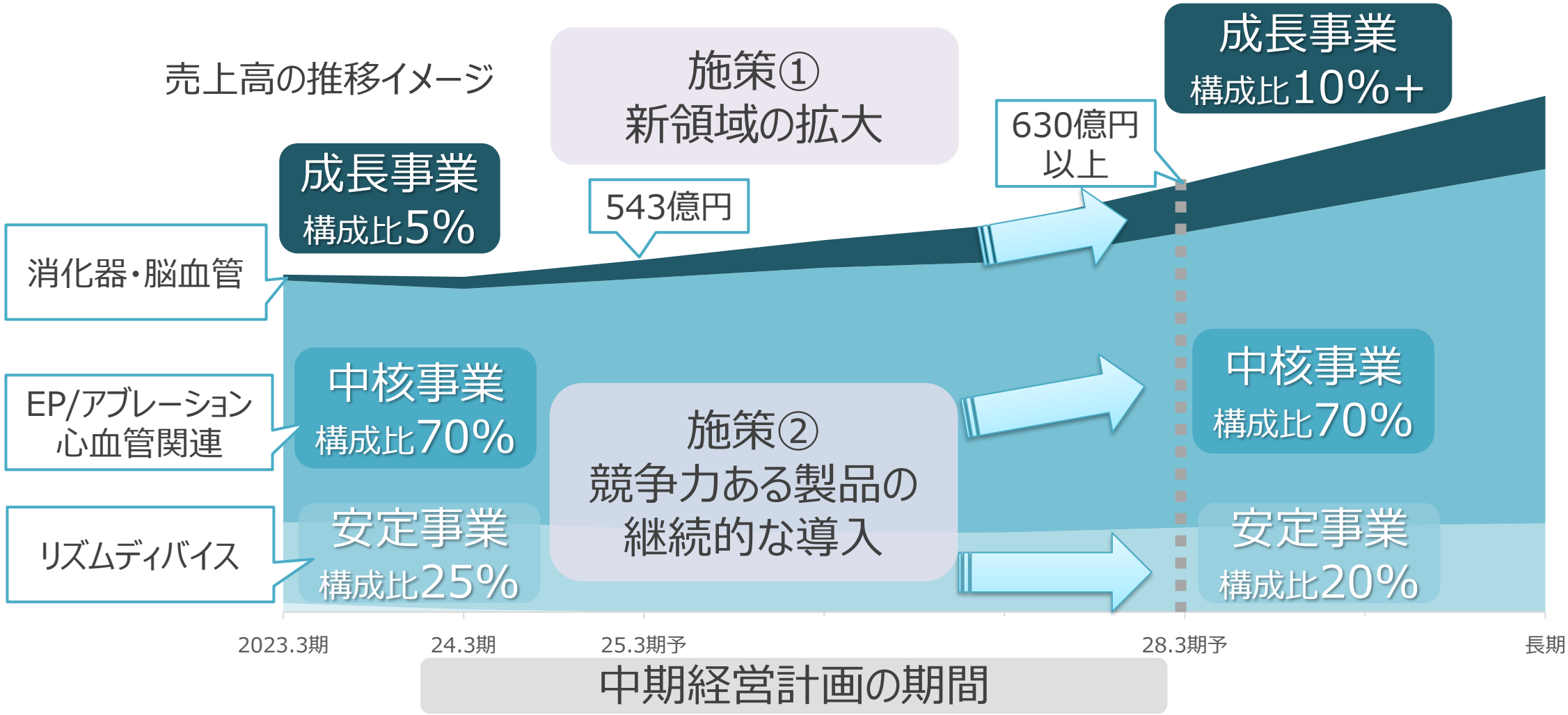
①新領域の拡大

②競争力ある製品の継続的導入

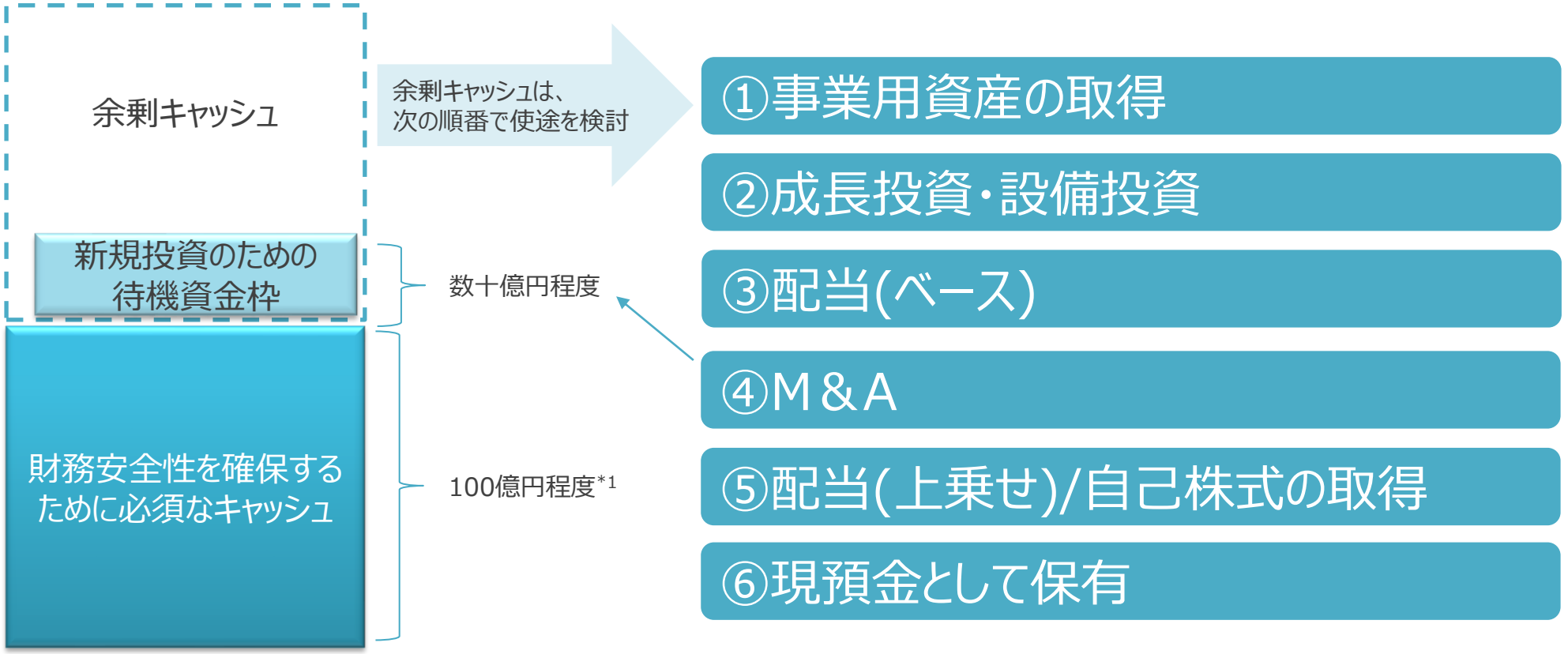
③資本効率を意識した経営の強化

3つの重点施策

中核事業を継続的な製品導入で強化しつつ、消化器・脳血管の成長事業もしっかり成長軌道に乗せる



機動的な成長投資の資金を常に確保しつつ、リターン(ROIC)と資本コスト(8%)を意識した資本配分を行う



*1 2024.3時点での目安であり、今後の事業環境の変化によって変動します

キャッシュの見通しと足元の投資案件の状況から中期の方針として株主還元を大幅に強化

配当
(上乗せ)

自己株式の
取得

- 業績・株価動向・KPIの状況を踏まえ、追加の還元策を検討
- 自己株式の取得後、使途が見込まれるものを除き、発行済総数の1%を超える部分を消却

配当(ベース)

- 配当性向40%またはDOE5%
(いずれか高い方)

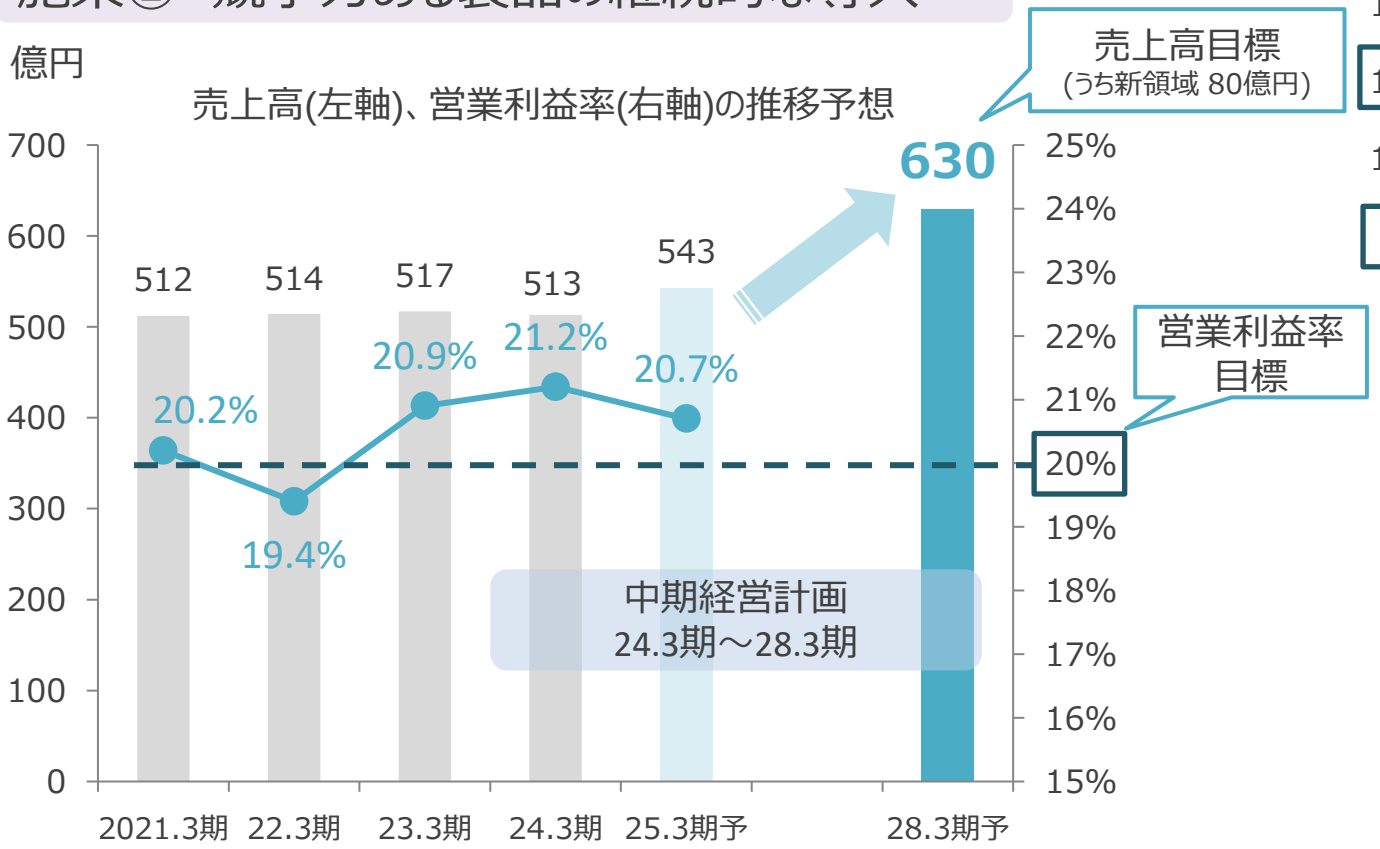
2024.3期～2028.3期の5年間の還元総額として、**250億円**程度を想定

中期目標設定

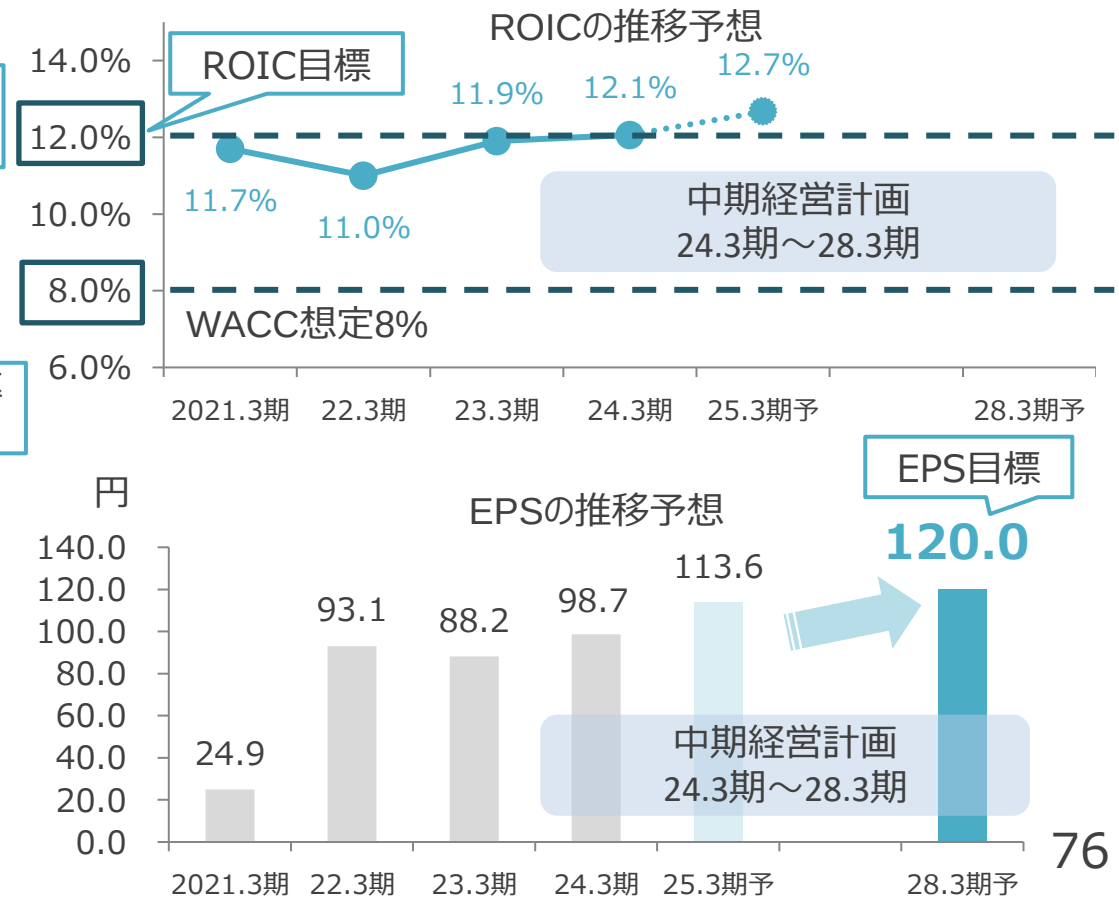
「着実な事業成長」と「魅力的なリターン」を両立するためのKPIを設定

施策① 新領域の拡大

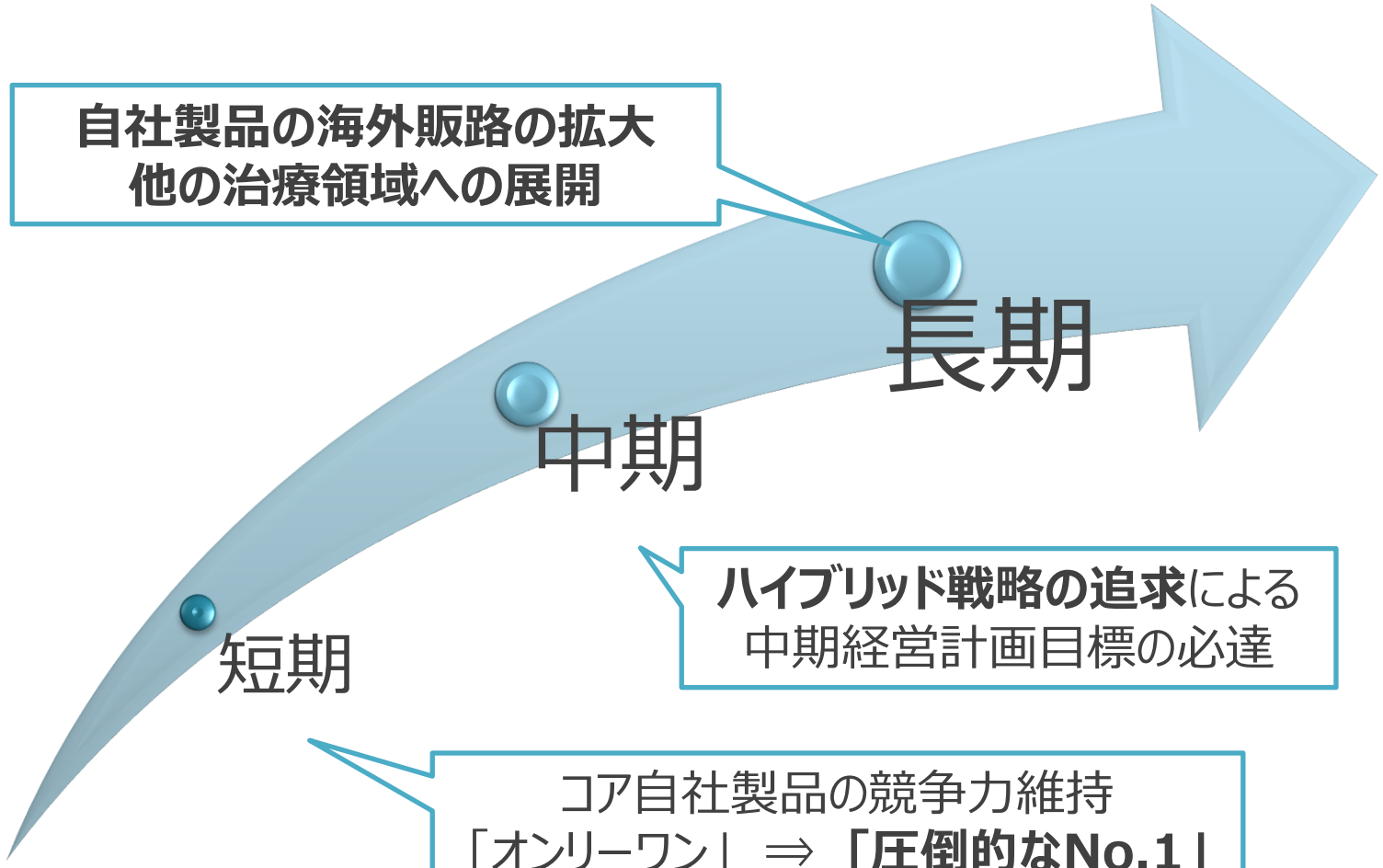
施策② 競争力ある製品の継続的な導入



施策③ 資本効率を意識した経営の強化



メーカー・商社のハイブリッド戦略は堅持
自社製品の海外販路拡大は長期の課題として取り組む



長期的に目指す
自社製品比率
65～70%

売上総利益率 60%＋
営業利益率 20～25%





Japan Lifeline



…for Patient Comfort

生きる力を支えるために

ご注意事項

本資料に記載されている内容の中で、歴史的事実ではないものは、当社の将来に対する予測です。特に、新商品や製品の導入、治験、薬事承認、そして発売時期については、過去の経験や利用可能な情報に基づいて当社が予測しています。しかし、様々な要因により、実際の業績は本資料で述べられている見通しと異なる可能性があります。そのため、これらの見通しに過度に依存しないでください。また、本資料には未承認の製品に関する情報が含まれている場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部
TEL:03-6711-5214
E-Mail:ir@jll.co.jp
URL:https://www.jll.co.jp